

高岡市立博物館年報

第 32 号

平成 29 年度

高岡市立博物館

は じ め に

高岡市立博物館は、当地の歴史・民俗・伝統産業にかかる資料の収集・保管、展示、また調査研究や教育普及など、さまざまな事業の継続と充実に努めています。平成29年度、当館では多岐にわたる事業を実施しました。

まず展示事業として常設展「高岡ものがたり」（通年開催）では、高岡の歴史・民俗・伝統産業の分かりやすい紹介に努め、常設展内のお宝コーナーでは、4回のミニ展示を順次開催しました。館蔵品展「新資料展」では、当館で近年新たに収蔵された資料を展示・紹介しました。特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」では、学問や勸農に努めた郷土の偉人・五十嵐篤好の業績について展示・紹介しました。企画展「黒部川開発100年記念写真展 ～高峰譲吉と山田^{ゆたか} 胖～」では、当館と黒部・宇奈月温泉開発100年事業実行委員会との共同開催により、未開の地に挑み、電源開発の基礎を築いた高峰譲吉と山田胖の功績ならびに黒部川の開発について展示・紹介しました。企画展「高峰譲吉パネル展」では、高峰譲吉のパネル部分を延長開催という形で展示しました。館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生き抜いた人々の暮らしぶりについて展示・紹介しました。

教育普及事業としては、郷土学習講座（3講）、古文書講座（6講）のほか、呈茶の会「松聲庵 -博物館で抹茶を楽しみませんか-」（春・秋）などを開催しました。

そのほか、高岡の歴史・民俗・伝統産業に関する資料の収集に努めました。調査研究活動では、国登録有形民俗文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要指定へ向けた当館収蔵の鋳物資料調査を行いました。加えて当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、計727件の資料情報をインターネット上で公開しました。

地域の歴史と文化の継承という博物館の任務には、決して終わりはありません。それは幅広い方々のご理解、ご協力があつてこそ、初めて可能になります。職員一同、さらに親しまれる博物館を目指して努力を重ねて参ります。日頃からのご協力に厚くお礼を申し上げるとともに、今後とも当館事業に一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

※なお、当年度館長として在職された新井雅夫氏は平成30年10月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成31年3月

高岡市立博物館
館長 廣瀬 由美子

目 次

I 事業の状況

1 展示事業

(1) 常設展「高岡ものがたりー楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアムー」	1
(2) 館蔵品展「新資料展」	1
(3) 特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」	1
(4) 企画展「黒部川開発100年記念写真展 ～高峰譲吉と山田 ^{ゆたか} 胖～」	10
(5) 企画展「高峰譲吉パネル展」	10
(6) 館蔵品展「昔の道具とくらし」	10

2 教育・普及活動

(1) 郷土学習講座（全3講）	20
(2) 展示説明会	22
(3) 古文書講座「初めての古文書教室」（全6講）	22
(4) ワークショップ等	23
(5) 刊行物の発行	24
(6) 団体見学、展示解説対応	25
(7) 他団体への協力	26
(8) レファレンス	30
(9) インターネットによる広報・普及	30

3 収集・保存活動

(1) 購入資料	30
(2) 寄贈資料	31
(3) 保存活動	33

4 調査・研究活動

5 高岡市立博物館に親しむ会との連携

II 管理運営の状況

1 職員名簿	37
2 歳出予算	37
3 高岡市立博物館協議会	37
4 高岡市立博物館条例	38
5 高岡市立博物館条例施行規則	39
6 入館者数	40
7 当館関連記事一覧	41

III 施設の状況

1 沿革	43
2 施設概要	44
3 利用案内	46

I 事業の状況

1 展示事業

(1) 常設展「高岡ものがたりー楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアムー」

〔会期〕平成29年4月1日(土)～平成30年3月31日(土) 〔308日間・通年開催〕

〔会場〕本館第1・2常設展示室、休憩室

〔趣旨・内容〕

高岡の歴史、祭礼などの民俗、銅器・漆器などの伝統産業について、分かりやすい紹介に努めている。「お宝コーナー」では時宜に合わせて展示替えを行うなど、絶え間ない発信に努め、展示の充実を図った。

①「絵画にみる高岡の風景」(4月1日～6月4日)

②「昔の電話に触れてみよう！」(7月9日～9月10日)

③「秋を彩るー高岡ゆかりの漆器ー」(10月28日～12月17日)

④「懐かしのレトロゲーム展」(平成30年2月10日～3月31日。次年度4月15日まで開催)

〔展示資料〕(平成19年度年報に掲載)

(2) 館蔵品展「新資料展」

〔会期〕平成29年4月1日(土)～5月7日(日) 〔33日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

当館で近年新たに収蔵された博物館資料を展示・紹介した(平成29年2月4日より、年度をまたいで開催したもの)。

〔展示資料、ポスター・チラシ画像、展示風景〕(平成28年度年報に掲載)

(3) 特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」

〔会期〕平成29年7月29日(土)～10月15日(日) 〔68日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

五十嵐篤好(1793～1861)は現在の高岡市内島の代々十村を務める旧家の9代目として生まれた。本展では、三度の冤罪にも屈せず学問や勸農に努めた郷土の偉人・五十嵐篤好の業績について紹介した。

〔印刷物〕

・ポスター(B2版、片面4色刷、400枚)

・チラシ(A4版、両面4色刷、6,000枚)

・パンフレット(A4版、4色刷、総頁数12、1,000部)

〔展示資料〕計134件198点

1. 十村・五十嵐家の先祖と父・之義

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵
1	写真「五十日帯日子命陵墓碑」	平成5年 (1993)建立	1	—	新潟県三条市。五十嵐神社内。五十嵐党の祖と伝わる五十日帯日子命は第11代垂仁天皇の皇子	当館
2	写真「五十嵐小文治吉辰霊碑」	明治34年 (1901)建立	1	—	小文治は“大蛇の子”伝承をもつ。五十嵐党の代々の当主は小文治（小豊次）を名乗った	当館
3	写真「五十嵐神社（飯田城跡）」	—	1	—	下田郷を約400年支配した五十嵐党の居館から約350m離れた地にあり、詰城と考えられている	当館
4	写真「注連掛けの大杉」	樹齢1400年以上	2	—	五十嵐神社内にあり、五十日帯日子命の陵墓の門口にあった大杉と伝わる	当館
5	写真「五十嵐館跡 航空写真」	—	1	—	標高38mにある居館で、80m×95mの方形単郭式。土塁と幅10m深さ1mの堀が取り囲む	当館
6	写真「五十嵐館跡 解説看板」	—	1	—	発掘調査により、鎌倉から江戸初期の遺物が出土し、南東面の虎口に四柱門跡が検出した	当館
7	写真「五十嵐館跡」	—	1	—	南東面の土塁、堀と虎口を望む。中世地方豪族居館の典型として、新潟県史跡に指定された	当館
8	『新刊 吾妻鏡』 卷二十一（複写）	建暦3年 (1213) 5月2日条	1	—	和田合戦において、五十嵐小豊次らの御家人は将軍御所で朝比奈義秀に殺されてしまった	原本：国立公文書館
9	五十嵐家 家系図	平成3年 (1991)	1	24.8×17.5× 厚2.0	『五十嵐一族』（武田光弘編、日本家系協会発行）より。「弥兵衛一九郎兵衛」に始まる	五十嵐家
10	「五十嵐氏歴代」（複写）	昭和期	1	26.3×18.9	初代を九郎兵衛とし、13代啓次氏まで記す。九郎兵衛の父・弥兵衛は神保氏張の家臣・某の末流で、永禄（1558～70）の戦いで功名があった	高岡市立中央図書館 保管
11	五十嵐之義編『五十嵐氏歴代』	天明7年 (1787)	1	25.4×17.8	初代を九郎兵衛とし、篤好の父で8代之義（孫作）までの履歴を記す	高岡市立中央図書館 保管
12	十村指替により内嶋村孫作十村任命申渡書	〔万治2年 (1659)〕8月 10日付	1	15.1×53.0	十日市村九郎兵衛（尾崎家／高岡市柴野）から五十嵐家3代孫作に十村役が差し替えられたことを砺波射水御郡奉行らから孫作へ通達	五十嵐家
13	御入国の御供に付申渡書	〔宝暦7年 (1757)〕 8月11日付	1	16.8×46.0	五十嵐家6代・佐次右衛門宛。郡奉行2名より。藩主の越中入国に際し、十村田中村三右衛門の代わりに御供を命じられている	五十嵐家
14	内嶋村孫作宛格別骨折に付褒状	〔文化14年 (1817)〕 9月付	1	16.2×34.4	篤好の父・之義に対し、改作方に精を入れ、格別に精勤しているの、褒賞されている	五十嵐家

2. 篤好と舟倉野開拓

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵
1	五十嵐篤好画像	昭和初期	1	127.3×39.2	篤好三男で11代・政雄筆。紙本着色。上部には政雄による篤好の経歴が書かれる	五十嵐家
2	写真「石黒信由画像」（部分）	天保14年 (1843)	1	—	国指定重要文化財。絹本着色。高岡町の絵師・浅野弥兵衛画。篤好の和算・測量の師	【新】

3	写真「舟倉野廻り分間絵図指急ぎに付書状」	〔文化12年(1815)〕 6月13日付	1	—	信由宛下条村弥二郎書状。舟倉野の絵図作成が早急に必要となり、之義らは信由を推薦し、早く舟倉村まで来てほしいと懇願している	【新】
4	写真「舟倉野堤場所に付五十嵐氏願への返状案」	〔文政元年(1818)〕 9月28日付	1	—	篤好宛信由書状案。篤好・信由共に携わっている舟倉野開拓に際し、堤について篤好の相談に対して信由が答えている	【新】
5	写真「算法解術の教示並に舟倉野用水等に付書状」	〔文政7年(1824)〕閏 8月26日付	1	—	信由宛篤好書状。信由に算術の解き方を教示してもらい感謝し、また舟倉野開拓について信由に相談にのってもらったことも感謝している	【新】
6	写真「『測遠要術』開板の件等に付書状」	〔安政3年(1856)〕 6月晦日付	1	—	石黒信基宛篤好書状。異国船騒ぎで、測量が大流行しており、篤好は1836年に没した師の名著を出版しようと信基(信由のひ孫)に打診	【新】
7	『精要算法』下巻(五十嵐篤好抜写)	天明元年(1781)著 ／文化7年(1810)写	1	24.7×18.3	藤田定資著、安島直円訂。全3巻。和算の優れた教科書として名高い。皆月家文書	【福】
8	五十嵐篤好編『探索』	文化14年(1817)	1	23.8×18.1	和算書。皆月家文書。皆月正義は砺波郡赤丸村(高岡市福岡町)肝煎で、篤好門弟	【福】
9	石黒信由著『御検地方要用』	文化9年(1812)	1	24.4×18.4	信由の手書き本。1831年に篤好に与えられ、1835年に篤好門人の皆月氏に与えられた	【福】
10	石黒信由著『測遠用器之巻』	享和2年(1802)著 ／江戸後期写	1	24.4×18.1	写本。信由著『測遠要術』別巻。測量器具と製図道具が図解されている。皆月家文書	【福】
11	五十嵐篤好著『地方新器測量法』	安政4年(1857)刊	1	—	上下2巻。篤好考案の新しい器具を用いて測量する方法が図解されている。県文・清都家資料	当館
12	石黒信由著『測遠要術』	享和2年(1802)著 ／江戸後期写	1	—	全5巻。写本。測量・製図方法のほか器具類の解説なども図を多用して分かりやすく解説	【福】
13	石黒信由著『算学鉤致』	文政2年(1819)刊	1	—	全3巻。下巻には信由門人奉納算額が収録され、篤好も2問納めている。県文・清都家資料	当館
14	舟倉用水と台地(複写)	平成21年(2009)	2	—	『台地を拓く 舟倉用水』(舟倉用水歴史冊子編さん委員会発行)より	当館
15	写真「舟倉用水 取水口」	—	2	—	富山市薄波の神通川支流の長棟川よりの取水口。これより台地まで14kmの用水がはじまる	当館
16	写真「取水口近くの舟倉用水」	—	2	—	岩盤をくり抜いて用水が流れている	当館
17	写真「取水口近くの長棟川」	—	2	—	富山市薄波	当館
18	写真「薄波2号隧道」	—	2	—	富山市薄波	当館
19	写真「急峻な山腹を流れる舟倉用水」	—	2	—	大正後期以降、徐々にコンクリートで覆われ、暗渠化され、一部はトンネル化されてきた	当館
20	写真「神通川 片路峡を望む」	—	2	—	富山市寺津	当館
21	写真「舟倉用水」	—	1	—	富山市寺家。付近には直坂遺跡(国指定史跡)がある	当館

22	写真「三ツ分水と級長戸辺神社」	－	1	－	富山市直坂の級長戸辺神社は明治23年（1890）、南砺市是安の同社より分霊された	当館
23	写真「三ツ分水」	－	1	－	船峠台地の入口・富山市直坂で、用水は三方に分かれ、台地を潤す。隣に級長戸辺神社がある	当館
24	写真「船峠台地を潤す舟倉用水」	－	1	－	富山市大沢野地区。現在約360ヘクタールの水田を潤している	当館
25	新川郡舟倉野新開用水薄波川取入口より野迄江筋絵図	原図文化14年（1817）	1	55.3×562.3	石黒信由作図（一般財団法人高樹会蔵・射水市新湊博物館保管／重文）写図。縮尺2,000分の1	船峠土地改良区
26	写真「横樋絵図」	文政12年（1829）改	1	－	横樋村は舟倉用水による開拓村。短冊形の区画内には開拓担当者の名前と石高が記される	【新】
27	上使往来図	〔文化12年（1815）カ〕	1	70.1×307.2	之義は図中各所に自作の和歌13首を詞書と共に記しており、他に例の無い「珍品」といえる	富山県立図書館
28	新川郡 舟倉村・万願寺村・小黒村領舟倉野絵図	原図文化12年（1815）	1	123.9×301.4	石黒信由作図（一般財団法人高樹会蔵・射水市新湊博物館保管／重文）写図。縮尺2,100分の1	船峠土地改良区
29	強盜式磁石台と軸心磁石盤	江戸後期	4	－	共に石黒信由の考案品。富山県指定文化財「清都家測量器具等関係資料」	当館
30	勾配板	江戸後期	1	32.3×36.2×厚1.9	道の傾斜や勾配を測る器具。富山県指定文化財「清都家測量器具等関係資料」	当館
31	割円度と割円度比例表	天保8年（1837）	1	－	製図用具。分度器。富山県指定文化財「清都家測量器具等関係資料」	当館
32	根発（規）	江戸後期	1	19.2×7.2	製図用具。富山県指定文化財「清都家測量器具等関係資料」	当館
33	舟倉用水の今と昔（複写）	平成27年（2015）	1	29.6×21.0	「舟倉用水200年」（船峠土地改良区発行）より。平成18年完工の用水暗渠化の着工前と後	当館
34	写真「舟倉用水殉職者供養碑」	－	1	－	級長戸辺神社裏に建つ。当初、1816年に五十嵐孫作・石黒信由らの建立。1872年再建	当館
35	写真「舟倉野開拓彰徳碑」	昭和32年（1957）建立	1	－	級長戸辺神社内に建つ。五十嵐孫作・篤好父子に石黒信由らの名が刻まれている	当館
36	五十嵐之義著『領絵図仕様』	享和2年（1802）著／天保9年（1838）写	8	23.8×17.6	検地書。書写の皆月正義は砺波郡赤丸村肝煎で、篤好門弟。正義はもう1冊の写本（富山県立図書館蔵）を篤好に贈っている。皆月家文書	【福】
37	逆目磁石盤	江戸後期	3	10.9×10.8×高4.2	方位を知るための器具。五十嵐家伝来品であり、之義著『領絵図仕様』にも掲載されている	五十嵐家
38	携帯用燭台	江戸後期	1	幅8.1×奥行7.6×高11.3	篤好が使用したと伝えられる。打ち出の小槌形で、雲の文様を銀線象嵌で描く。底銘「山楽」	五十嵐家
39	五十嵐之義著『舟倉野用水江筋水揉寸尺記申帳』	寛政8年（1796）著／大正5年（1916）写	2	26.8×19.1	之義の記録を篤好三男・政雄が書写。舟倉野開拓のため取水工事の間数・測量・工事の材料・人足・飯米・入百姓等について記録されている	高岡市立中央図書館保管
40	『船倉用水沿革誌』	大正～昭和初期	3	28.3×20.5	上新川郡船峠村役場編。用水開削・改修の歴史で殉職した犠牲者14名の名が記録されている	船峠土地改良区

3. 能登島流刑、国学・和歌との出会い

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵
1	五十嵐篤好編『先祖由緒書上帳』	文政4年 (1821)	1	24.1×18.0	初代次郎助が寛永19年(1642)に十村に任命されて以降の五十嵐家の由緒を記す。川合文書	富山大学 附属図書館
2	五十嵐篤好著『あらたへの記』	江戸後期	1	24.2×17.6	稿本。能登島流刑の篤好の随想風の記録。何度も校正がなされている	富山県立 図書館
3	十村断獄にて内嶋村孫作父子に付覚書	江戸末期	1	24.4×17.6	文政2年(1819)、篤好父子を含む十村28人らを投獄した、十村断獄についての覚書。川合文書	富山大学 附属図書館
4	五十嵐篤好著『群書一覧抜粹』	文政3年 (1820)／同 12年(1829) 写	1	18.3×13.8	『群書一覧』6巻は尾崎雅嘉著。「文政三年六月謫居」とあり、流刑が許されたその月に書かれたとわかる。五十嵐文庫	高岡市立 戸出図書館
5	五十嵐篤好著『古事記抜書』	江戸後期	1	18.1×12.9	篤好が『古事記』に出る単語を抜書きし、解説を加えたもの。後半には『万葉集』の抜書きもある。能登島流刑中に書かれた可能性がある	高岡市立 中央図書館 保管
6	写真「伊夜比咩神社」	－	1	－	石川県七尾市能登島向田町にある延喜式内社	当館
7	写真「伊夜比咩神社土蔵」	－	1	－	神職・船木氏の国学などの蔵書が収蔵されていたと思われる	当館
8	写真「船木氏墓」	－	1	－	伊夜比咩神社の神職・船木氏の墓所にある	当館
9	賀茂真淵和歌短冊	江戸中期	1	35.9×5.9	「山／ちはやふる 神のしつめし ふたら山／ふたたひとらす 御代はここかし」	五十嵐家
10	本居宣長画像(模写)	大正12年 (1923)	1	126.9×41.3	篤好三男・政雄筆。原図は本居宣長記念館蔵。宣長(1730～1801)は国学者。国学四大人の一人	五十嵐家
11	富士谷御杖和歌短冊	江戸後期	1	34.8×5.6	「鶯／うくひすのきなかぬ日すら 笛ふかす／琴ひかすして □ぬちにをり」	五十嵐家
12	富士谷御杖和歌	江戸後期	1	106.1×24.1	「桃さくら 花はいつれと たふもなぞ 恙なしこそ めかれせられね」。篤好の師	五十嵐家
13	富士谷御杖三行書	江戸後期	1	27.1×37.4	「或有所成、或有所不成」。『日本書紀』巻1の少彦名命の言葉	五十嵐家
14	望月幸智和歌色紙	江戸後期	1	18.2×15.6	「白雪の むかふすきはみ あら海に 佐渡のしまやま まゆのことみゆ」。篤好の師	五十嵐家
15	五十嵐篤好編『養老和歌集』	嘉永4年 (1851)	1	23.9×17.6	上巻は加茂真淵の、下巻は富士谷御杖の和歌を精選したもの(全800首)	高岡市立 戸出図書館
16	『養老和歌集』『伊勢物語』『春曙草紙』『万葉類葉鈔・万葉長歌』『大井河行幸和歌序(他)』『蟻通之記(他)』『古今和歌集』	－	7	－	『養老和歌集』を愛した篤好は、『万葉集』『伊勢物語』『春曙草紙(枕草子)』などと共に各小本にしてまとめ、「片敷の友」と名付けて旅行の際に必ず持ち歩いたという	五十嵐家
17	富士谷御杖著『古事記灯』	文化5年 (1808)著／ 江戸後期写	1	27.8×20.4	御杖(1768～1823)は国学者で之義・篤好父子の師。『古事記』の新解釈書。五十嵐文庫	高岡市立 戸出図書館
18	富士谷御杖著『脚結玄義』	文政4年 (1821)著／ 嘉永元年 (1848)写	1	26.4×20.4	御杖が富山滞在中に著した。翌5年に正式に御杖に入門した篤好が翌6年、序文を記した。五十嵐文庫	高岡市立 戸出図書館

19	五十嵐篤好宛富士谷御杖書状	〔文政6年(1823)〕 9月28日付	1	15.2×33.5	御杖が死の2ヶ月前に篤好に宛てた書状。篤好は御杖が亡くなる前年に入門し、御杖を何度も援助しつつ、文通によりその学問を受け継いだ	五十嵐家
20	五十嵐篤好著『歌学初訓』・『歌学次訓』・『歌学三訓』	天保10～12年(1839～41)著／〔初訓〕同14年写・〔三訓〕安政5年(1858)写	3	－	写本。初心者向けの和歌を作る際の注意点を記す。「初訓」(中村正方写)では題詠、「次訓」では余情、「三訓」(吉田友香写)では五七調・七五調について述べている。五十嵐文庫	高岡市立戸出図書館
21	五十嵐篤好著『国学無目籠』	弘化2年(1845)著／嘉永3年(1850)写	1	23.9×17.7	写本。言霊学の書。高岡の蘭方医・漢詩人の長崎浩斎(荻原 健)序。「勸学歌」という長歌と反歌各1首からなる。五十嵐文庫	高岡市立戸出図書館
22	中村孝道著『言霊或問』	天保5年(1834)著／江戸後期写	1	23.7×17.5	写本。言霊の力を疑う人が多いのを、篤好の師・中村孝道が、書留めてあったものを、判りやすいように編集したもの	高岡市立中央図書館保管
23	五十嵐篤好著『古今集序爪櫛』	文政9年(1826)著／昭和5年(1930)写	1	27.3×18.7	写本。『古今和歌集』『仮名序』の注釈書。篤好三男・政雄が高安周吉(富山布瀬の十村・国学者の高安定重子孫)蔵本写本を借りて書写	富山県立図書館
24	五十嵐篤好著『伊勢物語披雲』	安政5年(1858)著	7	－	写本。全7巻。『伊勢物語』の注釈書。物語第5段までは、師富士谷御杖著『伊勢物語灯』(1816年)を挙げて自説を加える。五十嵐文庫	高岡市立戸出図書館
25	五十嵐篤好著『言霊真澄鏡』	江戸後期／明治10年(1877)写	1	24.4×18.0	写本。篤好三男・政雄写。冒頭に中村先生(孝道)口授・望月先生(幸智)伝とある	当館
26	五十嵐篤好著『神典秘解』	嘉永2年(1849)／江戸末期写	1	23.4×17.7	写本。「神典」、つまり『古事記』『日本書紀』の注解書。五十嵐文庫	高岡市立戸出図書館
27	五十嵐篤好著『神代巻系図』	文政12年(1829)	1	24.1×17.4	写本。草稿。とは『日本書紀』一・二巻(「神代巻」)に登場する神々の系図	富山県立図書館
28	五十嵐篤好著『神典考』	嘉永2～5年(1849～52)	5	－	写本。1～6巻(3巻欠)。校正箇所が多く「草稿」とわかる。神典といわれる『古事記』・『日本書紀』に注釈を加えている	高岡市立中央図書館保管
29	五十嵐篤好著『湯津爪櫛』	安政4年(1857)序／文久3年(1863)刊	2	－	版本。上下巻。国学・言霊学を基礎とした歌論書。篤好は既に下巻と同じテーマを文政9年(1826)の『古今集序爪櫛』で論じている	富山県立図書館
30	五十嵐篤好著『湯津爪櫛よる藻』(稿本)	江戸後期	1	24.4×18.2	『湯津爪櫛』上下巻(1863年刊)は国学・言霊学を元にした篤好の歌論書。校正が多くなされる本書はそのための原稿か、研究書であろうか	当館
31	石黒信由著、五十嵐篤好序『渡海標的』	天保7年(1836)刊	1	24.4×16.7	真水の精製法や船上から北極星を測る方法など航海に必要な技術をまとめている。篤好は国学者として師匠の著書に序文を添えている	当館
32	五十嵐篤好和歌短冊	江戸後期	3	－	「春の野に日は暮れぬめり鶯よ花の宿かせ相宿りせむ」。「月出ていざよふ松はほととぎす鳴きて過ぎにし梢なりけり」。「散りける紅葉を袖に拾ひてもあきのなこりを誰としのはむ」	当館
33	五十嵐篤好和歌色紙	江戸後期	1	21.2×17.3	「梅ならて誰をしのふとなけれともただゆかしきはむかしなりけり」	五十嵐家
34	五十嵐篤好著『臥牛斎詠草』	文政3～万延2年(1820～61)	12	－	12巻。篤好42年間にわたる歌集。和歌5,683首、長歌63首など『万葉集』を凌ぐ歌の数	富山県立図書館

35	五十嵐之義著、同篤好改訂『五ヶ山塩硝出来之次第書上申帳』	文化8年(1811)著、嘉永7年(1854)改訂	1	28.1×18.7	前田直方の命により、之義の五箇山での塩硝生産調査の報告書。本書は後に篤好が改訂したもの。図解入りで詳述される	富山県立図書館
----	------------------------------	--------------------------	---	-----------	--	---------

4. 篤好の多彩な学芸

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵
1	五十嵐篤好著『雉岡随筆』	安政5年(1858)著／江戸末～明治初期写	2	—	写本。主に歌に関する論説64篇を2冊に収録している。なかでも枕詞の研究は注目すべき論説といわれる。五十嵐文庫	高岡市立戸出図書館
2	五十嵐篤好著『雉岡随筆続編』	江戸後期著／大正14年(1925)編	3	—	写本。篤好三男・政雄が篤好の論説90篇を3冊に編集したもの	富山県立図書館
3	五十嵐篤好筆跡	江戸後期	1	38.1×22.6	「君が世」と「長生殿」	五十嵐家
4	五十嵐篤好筆「両神号」	江戸後期	1	92.1×30.2	「大己貴神・少彦名神」。出雲神話の神	五十嵐家
5	五十嵐篤好奉納絵馬	天保6年(1835)	1	87.5×58.6	砺波の林神社。「はやしなる 神もしらさね いにしへを しのぶにいとど 繁きおもひを」	林神社
6	尊円法親王筆「天神名号」	—	1	93.9×22.2	尊円法親王(1298～1356)は青蓮院流(尊円流)の祖。篤好の「尊朝流」その分派	五十嵐家
7	高田祐久極	文政13年(1830)10月25日付	1	21.3×27.7	尊円親王筆「天神名号」の鑑定書。篤好が鑑定を師に依頼したものと思われる	五十嵐家
8	五十嵐篤好筆「雪のあした」	江戸後期	1	99.6×13.6	尊朝流書道にも秀でた篤好の流麗な書	五十嵐家
9	吉田友香編『富山柳町天満宮奉納歌』	江戸後期	1	24.8×17.6	柳町天満宮(現於保多神社)に奉納された和歌の記録で、篤好の歌も記録されている	高岡市立戸出図書館
10	五十嵐篤好著『篤好大人紀行文集』	江戸後期／大正11年(1922)写	1	24.2×18.4	12篇を収録。篤好三男・政雄が平井武夫(1909年に篤好の伝記を著す)より借りて写したもの	富山県立図書館
11	五十嵐篤好著『篤好大人文章』	江戸後期／明治後～昭和初期写	4	—	篤好の論考等が収録。篤好三男・政雄が写して編集したものか。2巻は「門人大棋一貫校」	富山県立図書館
12	五十嵐篤好著『国学論纂』	大正12年(1923)編	1	23.1×17.9	11篇。高岡町医者で親交のあった、長崎浩斎・津島之篤へ宛てた書状なども収録されている	富山県立図書館
13	五十嵐篤好臨書	—	4	—	『今古手本抜粹』(1834年)、『百体百人一首』(1860)、『八折手本』(1846)、『万葉百首色紙形』(1847)	五十嵐家・高岡市立中央図書館保管
14	五十嵐篤好著『天朝墨談』	天保2年(1831)著／安政6年(1859)刊	5	—	版本。5巻。漢字・仮名などのあらゆる文字・書体について、また書道の道具についての詳述。当時広く世に広まった	富山県立図書館
15	五十嵐篤好著『天朝墨談』下巻	天保2年(1831)著／同5年(1834)写	1	24.3×18.4	写本。後に発行される3巻から5巻までの内容。表紙には「地 再訂」とあり、校正がなされている	高岡市立中央図書館保管
16	高田祐久贈呈硯	—	1	18.3×6.8×高3.2	篤好の書道の師・高田祐久の父・英興が使用していた硯を、天保3年(1832)祐久が篤好に箱も詠えて贈呈している	五十嵐家

17	高田祐久著『天紙風筆』	天保2年 (1831)	1	23.9×16.7	篤好の書道の師よりの拝領品。しかし篤好は表紙に「但し誤字等あり。この原稿予が記したる一冊もて正すべし」とある	高岡市立 中央図書館 保管
18	五十嵐篤好歌論（田中大秀添削）	文政6年 (1823)	1	24.4×18.2	篤好の和歌に関する論説。国学者・田中大秀（1777～1847）の添削を受けており、その交流の濃さがうかがえる	高岡市立 中央図書館 保管
19	亡父孫作の高、進退につき安堵状	文政11年 (1828) 8月1日付	1	38.1×53.9	篤好宛。1819年に死去した父之義は、計45石を扶持されており、その相続を認めたもの	五十嵐家
20	砺波郡内嶋村高の内より田地扶持申渡状	延享4年 (1747) 11月6日付	1	38.2×53.8	五十嵐家6代・内嶋村佐治右衛門宛。内嶋村の内より15石の扶持を与えられている	五十嵐家
21	瑞龍寺へ御参詣につき村役人等へ心得申渡状	年未詳 3月14日付	1	15.4×43.3	改作奉行2名より篤好と中川村（高岡市）・南兵左衛門等の十村へ宛てている。川合文書	富山大学 附属図書館
22	扶持並びに砺波郡惣年寄役及び役中苗字名乗申渡状	〔文政4年 (1821)〕 7月付	1	15.8×21.4	篤好宛。扶持高15石が与えられ、砺波郡惣年寄役、及び役中の名字名乗りを許可された	五十嵐家
23	砺波郡御扶持人十村列申渡状	天保14年 (1843) 12月付	1	15.8×36.7	篤好宛。天保10年に十村制は復活されたが、当時篤好は謹慎中で、復職は同14年になった	五十嵐家
24	射水郡無組御扶持人十村並申渡状	弘化2年 (1845) 7月付	1	15.8×35.6	篤好宛。無組御扶持人十村並は十村役列9等中の4位で、篤好の最高位	五十嵐家

5. ひたすら農民のために

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵
1	五十嵐篤好著『郷莊考』	天保6年 (1835)	1	24.4×18.2	郷土の地誌を解説した篤好の代表的な著書。加賀藩領内の地名を史料を駆使して詳述している	富山県立 図書館
2	五十嵐篤好著「五十嵐五考」	天保6～7年 (1835～36)	4	—	篤好の農政史書5冊の総称。展示は次の4冊。『口米考』（1835年）、『高免考』（同）、『着米吉初銀考』（同）、『苗代名義考』（1836）。これに『夫銀考』を加えて「（五十嵐）五考」	富山県立 図書館・ 高岡市立 戸出図書館
3	五十嵐篤好著『立毛見分心得之事』	天保5年 (1834)	1	11.6×17.1	立毛とは農作物の収穫する前の状態。それを見分（検分）する際の心得を記している	富山県立 図書館
4	五十嵐篤好著『三州孝子伝』	江戸末期 ／大正15年 (1926)写	1	24.2×18.3	加賀藩領の孝子25名を紹介。篤好が藩に推薦した岩坪村（高岡市）久兵衛も収録されている	富山県立 図書館
5	西村十丈園筆「孝子久兵衛母を背負う図」	文政8年 (1825)	2	—	十丈園（?～1830）は伊勢出身の俳人・絵師。篤好が『三州孝子伝』に収録した岩坪村久兵衛	五十嵐家
6	五十嵐篤好著『耕作仕様考』	天保8年 (1837)著 ／昭和2年 (1927)写	1	24.3×18.8	篤好三男・政雄写。深耕早植えや、「レンゲ草」を田に植え窒素肥料とすることなどを勧めている	富山県立 図書館
7	五十嵐篤好著『言霊旅眺』	安政7年 (1860)著 ／幕末～明治 初期写	1	24.2×17.8	写本。死の前年になる篤好の最重要の書。国学から歌学、言霊学に至る自らの経緯とその思想を綴っている。五十嵐文庫	高岡市立 戸出図書館
8	位記	昭和3年 (1928) 11月10日付	1	—	地元や高岡文化会の活動により、昭和天皇即位記念日に篤好に対して、従五位が贈られた	五十嵐家

9	追贈者合同慰霊祭写真	昭和4年 (1929) 9月15日	1	—	県教育会主催で、県会議事堂を会場に行われた	五十嵐家
10	五十嵐篤好翁頌徳碑建設 寄附依頼状	昭和4年 (1929) 8月付	1	19.6×54.4	贈従五位五十嵐篤好翁頌徳会長（東五位村長）・窪田智作より。篤好の追贈を記念し、頌徳碑建設が計画され、寄付を呼び掛けている	高岡市立 中央図書館 保管
11	『贈従五位五十嵐篤好翁 頌徳碑除幕』	昭和6年 (1931) 11月22日	4	—	篤好の頌徳碑除幕式典の記録。頌徳碑図面、佐佐木信綱の題字書幅写真、碑完成の新聞記事	五十嵐家
12	写真「伝『備荒倉跡』 碑」	昭和51年 (1976)建立	2	—	高岡市六家にある。天保の飢饉に苦しむ農民のため、篤好が1834年に私費で建てたと伝わる	当館
13	五十嵐篤好歌・斐子夫人 画「蘭図」	江戸後期	1	103.9×27.1	篤好歌「人しらぬ深き谷にも咲いでてひとり薫れる花にやはあらぬ」。表具は夫人の帯	五十嵐家
14	写真「五十嵐篤好墓所」	—	1	—	五十嵐家屋敷跡の東五位小学校東隣にある	当館
15	写真「贈従五位五十嵐篤 好翁頌徳碑」	昭和6年 (1931)建立 (平成18年 修復)	1	—	高岡市立東五位小学校東隣に建つ。昭和3年、昭和天皇即位大典につき、従五位を追贈されたのを記念して建立	当館
16	写真「五十嵐政雄作 『五十嵐篤好翁頌徳碑』 碑文」	昭和5年 (1930)	1	—	篤好三男で11代・政雄（1850～1934）作。書は高岡の書家・林義幹	高岡市立東 五位公民館
17	写真「五十嵐篤好翁頌徳 碑 碑文解説碑」	平成18年 (2006) 8月2日	1	—	国道8号の拡幅工事に伴い、篤好頌徳碑は修復・移転された。碑文解説碑が新設された	高岡市立東 五位公民館
18	写真「五十嵐篤好翁頌徳 碑移転完工式」	平成18年 (2006) 8月6日	1	—	補修・移転が行われた頌徳碑完工記念式典の写真	高岡市立東 五位公民館
19	写真「五十嵐家の菩提樹 (左)」	平成18年 (2006)撮影	1	—	五十嵐家の屋敷跡の樹齢200年以上の菩提樹（右はモミジ）	高岡市立東 五位公民館
20	写真「菩提樹苗木と石 碑」	平成29年 (2017)撮影	1	—	菩提樹は平成24年4月の暴風で倒れ、伐採されたが、現在暴風で残った苗木が植えられている	当館
21	五十嵐家の菩提樹	—	2	—	暴風で倒れ、伐採された菩提樹の一部	当館

※所蔵の記号は、【新】原本：一般財団法人高樹会蔵・射水市新湊博物館保管、【福】高岡市福岡歴史民俗資料館を示す。
※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。写真・複数資料の寸法は割愛しました。



チラシ・ポスター



パンフレット



展示風景

(4) 企画展「黒部川開発100年記念写真展」～高峰譲吉と山田^{ゆたか}胖～

〔会期〕平成29年11月1日(土)～11月30日(木) 〔26日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

本展では、当館、黒部・宇奈月温泉開発100年事業実行委員会との共同開催により、未開の地に挑み、電源開発の基礎を築いた高峰譲吉と山田^{ゆたか}胖の功績ならびに黒部川の開発について展示・紹介した。

〔展示資料〕計153件161点



チラシ・ポスター



展示風景

(5) 企画展「高峰譲吉パネル展」

〔会期〕平成29年12月1日(金)～平成30年1月8日(月・祝) 29日間

〔会場〕新館第3企画展示室

〔趣旨・内容〕

前企画展が好評につき、高峰譲吉の生涯を分かりやすく紹介しているパネル部分を延長開催という形で展示した。

〔展示資料〕計69件77点



チラシ・ポスター



展示風景

(6) 館蔵品展「昔の道具とくらし」

〔会期〕平成30年2月3日(土)～3月31日(土) 〔49日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

本展では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生き抜いた人々の暮らしぶりについて展示・紹介した。

〔展示資料〕計141件163点

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵
1	菅笠		1	径52.0× 高12.5	主に雨具や日よけに使われた。高岡市福岡地域では、古くから菅が栽培され、その菅で笠が生産されてきた。平成21年（2009）には「越中福岡の菅笠製作技術」として、国の無形民俗文化財に指定された	当館 (神保成伍氏)
2	カンカン帽	大正中～昭和初期	1	径20.6× 高9.6	麦藁帽子。麦藁をプレスして、糊やニスなどで塗り固めているため、軽くて丈夫である	当館 (富田保夫氏)
3	写真「着物姿でカンカン帽を被る男性」	昭和初年頃	1	－	日本では男性の夏のフォーマルな帽子として広まった。叩くとカンカンと音がするからカンカン帽ともいわれる	【昭】
4	モジリ（巻袖）		1	身丈83.0× 裾60.0	女性用の仕事上着。袖口が細いため、仕事しやすい、重ね着もできる	当館 (吉田元太郎氏)
5	袖無し		1	身丈63.0× 裾39.0	袖がない腰丈ほどの短い上着。農作業時や、少し寒い時に作業衣や着物の上に着た。「ドーゲン」ともよばれる	当館 (藤田よしえ氏)
6	もんぺ		1	丈80.0× 腰回94.0	女性の農作業用の野良着。戦時中からの女性の日常着だった	当館 (国奥定治氏)
7	写真「盥と洗濯板で揉み洗い」	昭和30年代以前	1	－	盥に水を入れ洗濯物を浸けて、しゃがんで洗濯板を使って、石鹸をこすりつけながら揉み洗いする	【昭】
8	写真「庭に盥を出して水遊び」	昭和47年 (1972)	1	－	盥の中で水遊びをする子ども	【昭】
9	盥		1	径60.0× 高22.5	洗濯用の盥。夏は盥でスイカやビールを冷やすのにも使われた	当館
10	洗濯板		1	幅55.0× 奥行55.0× 厚1.6	洗濯盥に湯や水を入れて、洗濯板を立て掛け、衣類を板の凹凸の溝にこすり合わせて汚れを落とす。女性の大切な嫁入道具の一つでもあった	当館 (谷道俊雄氏)
11	洗張板		1	幅189.6× 奥行40.6× 厚1.7	着物などを洗濯する際には、着物をほどこいて布の状態に戻して洗う。洗い終わった布は糊付けをし、濡れているうちに洗い張りの板に張りつけて乾かす	当館 (日尾清作氏)
12	写真「洗張板で布を乾かす」	昭和51年 (1976)	1	－	シワにならないように乾かすことができる	【昭】
13	「着物の丸洗いの図」		1	－	着物を丸洗いする場合の手順を示したもの	【い】
14	竹皮草履		2	幅12.0× 奥行22.5	一足。竹の皮を編んだ底の部分に鼻緒が付けられた草履。底が半分ほどの長さしかない「足半草履」もある	当館 (富田保夫氏)
15	草鞋	昭和6年 (1931)建立 (平成18年 修復)	2	幅22.0× 奥行13.0	一足。主に稲藁で編んだ、長時間の歩行に適した履物。足首に藁紐を巻き付けて固定する	当館

16	藁長靴		2	幅10.9× 奥行25.0× 高34.0	一足。雪の中で履く藁製の長靴。底が草鞋になっていて、取り外しできる。爪先部分が割れており、履いてから縄で縛るため、隙間から雪が入らないようになっている	当館
17	ゲートル		2	—	足の脛を保護するためのもの。ラシャ（厚く密な毛織物）製の細い带状布を巻き付ける巻脚絆。軍隊でも使用された	当館 （本房繁治氏）
18	男物用下駄		2	幅10.7× 奥行23.0× 高10.0	一足。雨天や雪道の歩行に履いた。差歯は減ったら差し替えた	当館 （西田弘氏）
19	子供用下駄		2	幅8.2× 奥行16.8× 高8.8	一足。2本歯の子供用差歯下駄	当館 （本郷与一郎氏）
20	女物用雪下駄		2	幅9.6× 奥行22.4× 高11.1	一足。歯の部分に鋸が取り付けられ、雪の中でも滑らない工夫がされている	当館 （横山宏平氏）
21	箆		1	幅52.0× 奥行45.0× 高21.0	野菜を洗ったり、とぎあげた米の水をきる道具。食材などを干すのにも使う。高岡では「箆筥」ともよばれた	当館 （田中為雄氏）
22	写真「囲炉裏端の風景」		1	—	場所・氷見市内。食事時は囲炉裏のまわりにそれぞれ箱御膳を並べて食事をしたり、来客をもてなす接客の場にもなった	【氷】
23	写真「レンガ造りの竈で料理」	昭和32年 (1957)	1	—	竈には羽釜が2つ、真ん中には鉄鍋がのっている。写真奥にはヤカンやブリキ製のバケツが置いてある	【台】
24	「囲炉裏の図」		1	—	自在鉤で吊るされた鉄瓶や囲炉裏端の様子が示された図	【イ】
25	写真「囲炉裏に置かれた竈にかけられた羽釜」	昭和34年 (1959年)頃	1	—	手前には自在鉤に鉄瓶が下げられ、竈の焚口の前には火箸がある。写真奥の薪を燃やしている	【台】
26	鉄鍋		1	径32.4× 高17.4	囲炉裏や竈に掛けて、汁物や煮物などを煮炊きした。大鍋）では大量の里芋やさつま芋などを煮たという	当館
27	鉄製羽釜		1	径43.0× 高33.0	ご飯を炊く釜。竈にかけるための鍔を羽根に例えて羽釜という	当館 （筏井晴夫氏）
28	アルミ製羽釜		1	径41.0× 高33.5		
29	蒸籠		4	—	鍋や釜の上のにのせて、もち米・団子・赤飯などを蒸す道具	当館 （金刺亀太郎氏）
30	陶製釜	昭和14～20年 (1939～45) 頃	1	径21.8× 高15.0	戦時中の金属代用品。戦時中の「金属供出令」により、家の中にある金属製品を全て差出し、代わりに木や陶器の代用品を使うことを強制された。釜のほか、湯たんぽや枕などいろいろな代用品があった	当館 （五嶋孝一氏）
31	しゃもじ立て		1	径6.3× 高59.7	しゃもじ立ては、竹の節を用いて筒を連ねたように作ったもの。台所の脇に掛けておいて、しゃもじ・はながい・箸などを挿しておくのに使われた	当館 （徳田三郎氏）
32	ナショナル 電気炊飯器		1	径26.7× 高26.5	ナショナル（現・パナソニック株）製の電気炊飯器。タイムスイッチ付きで、一升炊き。日本（世界）初の電気炊飯器は、昭和30年の東芝製	当館 （日尾清作氏）

33	保温ジャー「象印トップジャー」	昭和40年 (1965)発売	1	幅29.0× 高30.5	真空の二重ガラスに覆われた内部に、炊きあがったご飯を入れて保温するもの。電気がなくても保温・保冷できる「魔法瓶」の一つ	当館 (富田保夫氏)
34	写真「改善される台所」	昭和30年 (1955)	1	－	場所・山形県酒田市。タイル張りの竈、新型の手押しポンプなどがある	【台】
35	飯盒	昭和15年 (1940)	1	幅20.3× 高14.5	炊飯器を兼ねた弁当箱。当初は軍隊で使われた。中蓋（掛子）はおかずを入れるもの。または中蓋1杯の米に外蓋1杯の水で丁度良い水加減となる	当館
36	写真「箱膳で食事をする家族」	昭和32年 (1957)頃	1	－	各々が箱膳で食事をとる風景	【台】
37	箱膳		1	幅31.0× 奥行31.0× 高17.0	一人用のご膳。箱の中に茶碗・箸・皿などを入れておき、食事の時に蓋をあおむけて上に茶碗を並べてご飯を食べる。食事後は中へ食器をしまっておく	当館
38	写真「ちゃぶ台を囲む食卓の図」		1	－	数人が囲んで食事をする御膳。昭和戦前から普及し始めたが、多くの農家では戦後まで箱膳が使われていたという	【イ】
39	酒樽		1	径34.0× 高20.9	酒を入れておいた道具。上げ底で漆が塗ってあるので、祝い事に使われたものと思われる	当館
40	片口		1	径25.0× 高15.5	油や酒、醤油など液体のものを入れ、他へ移すのに使用。片側に注ぎ口をもつ。木製や陶磁器製のものもある	当館
41	通い德利（通り町・富田醤油店）	明治末～昭和初期	1	幅14.5× 高26.0	酒屋や醤油店が貸し出す德利。客はこれを店に持っていき、必要なだけの量の酒や醤油を購入した。代金はつけ（後）払いで、お盆と年末にまとめて支払った。貸德利、貧乏德利ともよばれる	当館
42	電気コンロ	昭和中期	1	幅27.2× 奥行19.7× 高7.8	戦後、七輪や練炭火鉢とともに使われた。電熱器ともいう。東京芝浦電気株式会社（現・東芝）製	当館 (神保成伍氏)
43	アルマイト製弁当箱	昭和前期	2	－	これまでの竹の皮や柳行李に代わる弁当箱として、昭和初期頃より普及し始めた。アルミニウムの腐りやすく傷つきやすい点が改良された	当館 (邑本順亮氏)
44	めんば	昭和50年 (1975)	1	幅29.5× 奥行21.5× 高10.5	エゾ松を材料に作られた曲物の弁当箱。「飯輪」から「めんば」とよばれるようになったという	当館
45	鯉節削り		1	幅27.2× 奥行13.0× 高9.7	鯉節を削る道具。引き出しのついた箱の上に鉋の刃が付いている。削った鯉節は下の引き出しに入る	当館 (筏井晴夫氏)
46	蒟蒻突き		1	幅40.0× 奥行10.0× 高5.9	筒の中に蒟蒻を入れて、突き棒で押し出すことにより、金属製の綱目から蒟蒻が細長く切断されて出てくる仕組み	当館
47	写真「井戸から水を汲み上げる」	昭和32年 (1957)頃	1	－	滑車に縄を通して、釣瓶桶で水を汲み上げる	【台】
48	釣瓶桶		2	－	縄や竹竿の先に取り付けて井戸の水を汲みあげる桶。滑車に吊るして使われる。杉板を並べて鉄の箍で押さえてある	当館 (石田喜平氏)
49	自在手燭		1	幅19.8× 奥行10.1× 高13.2	蠟燭を立てて持ち運ぶ移動用の燭台。垂直に立てて鴨居・長押などに引っ掛ける「掛燭」にもなる	当館
50	差込蠟燭立		1	幅7.8× 奥行12.7× 高37.6	板に釘がついており、柱などに突き刺して使う蠟燭立。「火之要心」とある	当館 (神保成伍氏)

51	有明行灯		1	幅26.0× 奥行26.0× 高35.0	部屋の照明道具。持ち運びができる。油の入った皿に、綿糸などで作った灯芯を入れて点火した。夜明けまで常夜灯として使用されたので、「有明行灯」と呼ばれた	当館 (斉藤尚司氏)
52	家提灯	昭和期	1	径44.6× 高75.0	中に蠟燭を入れて明かりをとる道具。日の丸の紋が入っていることから、祭りや行事などに使われたものと思われる	当館 (米森米太郎氏)
53	強盗		1	径27.5× 幅42.5	一方向を照らすための手持ち用の灯火具。「強盗提灯」の略。現在の懐中電灯に相当する。中に蠟燭を立てて使用する	当館
54	角灯		1	幅9.2× 奥行9.2× 高20.5	室内用照明器具。持ち歩くこともできる。家の中の移動や近所へ出かける時にも使用。電灯が普及したあとも、停電時や懐中電灯が普及するまで使われた	当館 (泉治夫氏)
55	カーバイドランプ	大正～昭和 前期	1	径14.0× 高28.3	カーバイド（炭化カルシウム）に水を加えると発生するアセチレンガスを燃料として使用するランプ。火力が強く、燃料の持ち運びにも便利であった	当館 (徳田三郎氏)
56	練炭コンロ	昭和後期	1	径23.4× 高25.6	練炭を中に入れて使用する。風で消えることなく長時間燃えるため、野外での煮炊きや暖をとる際に用いる	当館
57	練炭		1	径12.0× 高11.0	炭粉、石炭粉などに接着剤を練り混ぜて固めた固形燃料。円筒形で、よく燃えるようにするために、縦に数個の空気穴が開けられている	当館
58	写真「家の前で写る母と子」	昭和20年 (1945)頃	1	—	自転車を持ち、もんぺ姿の母親と子どもが写る。背後には、軒下に木と竹で枠を組み、庭状の藁で覆った雪囲いがある	【高】
59	火鉢		1	径44.6× 高29.2	灰を入れて炭火をおこし、手足を温めたり、湯を沸かししたりする暖房具。石油ストーブが登場して以降、衰退していった	当館 (菊田明美氏)
60	陶製湯たんぽ		1	幅26.2× 奥行14.2× 高16.5	中にお湯を入れて、手足や体を温めるための道具。やけどしないように布に巻いて、布団の中に入れた	当館 (江湊安太郎氏)
61	ブリキ製湯たんぽ	大正～昭和 初期	1	幅32.0× 奥行24.0× 高9.0	身体を温めるために湯を入れて寝床で使う道具。湯が冷めないように、注水口をできるだけ小さく作り、栓をして使う	当館 (織田睦夫氏)
62	コクヨヒーター（足温器）	昭和20年代	1	幅24.4× 奥行18.7× 高13.1	足を温める道具。木枠中に入っている電熱線に電気が通って発熱する仕組み	当館 (神保成伍氏)
63	写真「置炬燵の図」		1	—	炬燵槽とよばれる木枠の中心に、行火または掘り炬燵を置き、上から炬燵布団をかけて使われた	【イ】
64	炬燵槽		1	幅50.5× 奥行50.5× 高37.5	中に炭火を入れた行火などを置き、布団の中で足を温めた	当館 (金刺亀太郎氏)
65	ねこごたつ（行火）		1	幅・奥行・ 高各25.0	中に炭火を入れて手足を温める道具。これを覆うように槽をのせ、その上に布団をかぶせて暖をとった	当館 (江湊安太郎氏)
66	火のし		1	径11.7× 長37.7× 高5.4	中に炭火を入れて、その熱で布などのシワをのばすための道具	当館 (吉野作治氏)

67	ナショナル スーパーアイロン	昭和2年 (1927)発売	1	幅17.5× 奥行14.6× 高11.9	松下電器製作所（現・パナソニック）が発売した電気アイロン。電気アイロンは、明治33年（1900）頃に登場し、各家庭に普及し始めたのは大正6年（1917）頃であるとされる	当館
68	蠅取り器		1	径17.8× 高14.3	中に水などを入れ、容器の下に紙を敷いて飯粒や砂糖を置くと、下部から蠅が入り水に落ちる仕組み	当館
69	陶枕		1	幅21.2× 奥行11.2× 高10.4	陶磁製の枕。中が空洞になっていて小石が入れてあり、動くとカラカラ音がする。この枕をすると血圧が下がるなどといわれ、近年まで健康枕として使われてきた	当館 (米澤暢晃氏)
70	箱枕		2	－	寝る時に使った道具。江戸時代に鬻を崩さないよう首をのせていたが、明治期以降もしばらく使用された	当館 (泉治夫氏)
71	写真「嫁入り道中」		1	－	場所・埼玉県所沢市。角隠しを被る花嫁の姿	【い】
72	角隠し		2	幅16.5× 長112.0	婚礼の際に、花嫁が結った高島田の鬻を飾る布	当館 (神保成伍氏)
73	写真「昔の嫁入り」		1	－	笠と杖を持ち、脚絆に足袋、草鞋姿の人により、嫁ぎ先へ持参するたんす・長持などの嫁入道具が運ばれた	高岡市
74	写真「射水神社の結婚式」	昭和42年 (1967)	1	－	写真左奥には、花婿・花嫁と仲人夫妻がみえる。高岡古城公園本丸にある射水神社では、現在でも多くの結婚式、披露宴が行われている	【高】
75	水合わせの竹筒		1	径6.2× 高23.4	婚礼の「水合わせの儀」に使われた。竹筒の中に実家（育った家）の水を入れ、嫁ぎ先の玄関まで持って行き、その水を土製の盃（カワラケ）に入れ、それを娘が飲み干し、玄関先で盃を割る	当館 (金戸嵩氏)
76	重台・重布団・重箱		3	－	婚礼の後、近所や親戚への挨拶回りに行くときに使われる。赤飯や餅、饅頭などを重箱に入れ、その上から豪華な刺繍や家紋の入った重掛けを掛ける	当館 (江瀬安太郎氏)
77	重掛け		1	73.4×70.2		当館 (手崎純子氏)
78	祝い熨斗		2	－	祝い事に使われた熨斗	当館 (木津鉄太郎氏)
79	友禅染幔幕に桜文花嫁暖簾		1	185.0×128.5	婚礼に際して花嫁が持参し、嫁入りの日に広間や部屋の入口に掛けた暖簾。三巾・四巾などのものがある	当館
80	表打蒔絵高下駄（女物）	昭和前期	2	幅22.5× 奥行9.2× 高11.2	一足。桐の台にカシ・ホオ・ブナ材の歯を差し込んだ差歯の高い下駄で、主として雨天の歩行時に爪革をつけて履く。竹皮や籐表つきの高下駄は、足袋を履いて余所行に用いた	当館 (手崎純子氏)
81	写真「つぶらに入る子ども」		1	－	場所・氷見市内。昭和20年代頃まで使われたという	【氷】
82	つぶら（嬰兒籠）		1	径69.5× 高36.6	赤子の中に入れて、その周りに古着や毛布などを入れ、固定することができる。子どもが少し大きくなり動けるようになると、帯を掛けて抜け出せないようにもした	当館
83	写真「百日の祝い」	昭和39年 (1964)	1	－	「一つ身」（乳児用の着物）を着た赤ちゃんの「百日の祝い」の様子。子どもの生後100日行われる儀式で、一汁三菜の「祝い膳」が用意される。「お食い初め」ともいわれる	【高】

84	写真「天神様の前で」	昭和42年 (1967)	1	—	高岡では、昔から長男が生まれると母親の実家から天神画像が贈られ、毎年12月25日～1月25日まで飾られる。子どもの無病息災・学業上達を祈る	【高】
85	ホーロー看板「ヤンマーオフセット式石油発動機販売所」	昭和中期	1	36.4×54.4	ホーロー看板は主に屋外用の表示として、珐瑯仕上げで制作された鉄製看板。ヤンマーオフセット式石油発動機は、大正14年（1925）に製造・販売が開始され、昭和12年（1937）に製造が中止された	当館 (中山武央氏)
86	鋤簾		1	幅27.5× 奥行37.8	土砂などを掻き寄せる道具。田起こしや穴掘り、アサリやシジミなどの貝類を採集するための掻き出しなど、様々な使い方をした	当館 (中田地域生涯学習推進協議会)
87	株切り	昭和10～20 年代(1935～ 55)	2	—	春先の田起こしに先立ち、前年の稲株を切り割る鎌のこと。当初は長い柄の付いた「株かけ鎌」が使われたが、後に両足に履く「株切り」に変化した	当館 (中山武央氏)
88	背板		1	幅47.0× 奥行77.0	荷物を担ぐために背負う運搬道具。稲や薪など、量の多い物を運ぶのに便利	当館 (堺喜十郎氏)
89	荷棒（背板用）		1	長71.5	疲れたときなど、荷物を背負ったまま荷棒を背板の下において支えて休息することができる	
90	写真「背板で麦束を運ぶ」	昭和59年 (1984)	1	—	場所・埼玉県横瀬町	【い】
91	写真「背板で荷物を運ぶ」		1	—	場所・氷見市内。「ショイコ」ともよばれる	【氷】
92	藤箕		1	幅58.0× 奥行50.5× 高12.0	穀物を選別したり、運搬したりするための農具。板製や竹製などがある	当館
93	写真「箕による粃の選別」		1	—	両手で縁を持ってあおり、風によって粃を選別する。稲扱き、粃摺り、精米などの秋の収穫作業全般に広く使われた。また、堆肥や肥料を田んぼに撒くなど、様々な用途に使用された	【写】
94	写真「馬鍬による代かき作業」		1	—	馬に続き、男性が馬鍬を持って作業している様子	【氷】
95	馬鍬		1	幅90.3× 奥行8.0× 高70.0	馬や牛に曳かせて代かき（田植えのため、田に水を入れて土を碎いて掻きならす作業）をする道具	当館 (中山武央氏)
96	「牛に馬鍬を曳かせる図」		1	—	一人が馬に繋がれた馬鍬を支え、もう一人が馬の綱を曳く図	【い】
97	写真「排水溝掘機（ミゾカキ）で排水の溝切り作業」		1	—	場所・高岡市下麻生	【中】
98	排水溝掘機（ミゾカキ）		1	幅20.8× 高78.5	水田を干すために、排水溝を掘る道具。また畑の溝掘りにも利用した	当館 (中山武央氏)
99	写真「双用犁での牛耕」		1	—	双用犁は犁先とヘラが同時に左右に回転し、土を耕すことのできる道具。明治末頃から普及し始めた	【写】
100	双用犁	明治末～ 昭和前期	1	幅165.0× 奥行55.0× 高122.0	牛や馬などに括り付けて土を耕す道具。鉄製のヘラが左右に回転することにより、土を耕す作業が楽になった。双用犁は明治33年（1900）に考案された。土を片側にしか耕せない「単用犁」を改良したもの	当館
101	写真「柄振による田ならし作業」	昭和46年 (1971)	1	—	場所・埼玉県所沢市	【い】

102	柄振り		1	幅104.0× 奥行10.0× 高167.0	田植え前の整地作業で最後の代かきをした後、さらに土を柔らかくしたり、平らに均すのに使われる道具	当館 (中井七郎氏)
103	田下駄		2	幅15.0× 奥行15.0× 高5.0	一足。深田や泥田に入って作業をする際に、体が沈むのを防ぐために足に履くもの。水下駄ともいう	当館 (中山武央氏)
104	写真「回転式中耕除草機 での中耕と草取り作業」		1	－	場所・埼玉県小川町。「ラチウチキ」とも呼ばれる	【い】
105	回転式中耕除草機		1	幅46.5× 奥行23.0× 高146.0	二条取り。田植えの後に稲の間を転がして、中耕（稲の根に酸素を補給すること）と草取り作業を同時に行う農具。大正年間から昭和45年（1970）頃まで使われていた	当館 (中井七郎氏)
106	写真「田植え作業風景」		2	－	女性が列をなして田植えを行う作業風景	【中】
107	写真「鎌による稲刈り」		1	－	皆で協力しながら、稲を一束一束刈り取る作業風景	【写】
108	田股引		1	丈74.0× 腰回94.0	水田作業で着る丈の短い股引	当館 (吉田元太郎氏)
109	写真「千歯扱きによる脱穀作業」	昭和30年代頃	1	－	場所・氷見市内	【氷】
110	千歯扱	江戸期～ 昭和10年 (1935)頃	1	幅51.3× 奥行26.8	稲や麦の穂を脱穀する際に使われる道具。昭和10年頃まで使用され、後の回転式足踏脱穀機へと移行した	当館 (中田地域生涯学習推進協議会)
111	手動稲刈機	昭和36～37年 (1961～62) 頃	1	全長155.5× 幅114.0× 奥行25.0	手押しの稲刈り機。のこぎり目の付いたY字型の部分で稲株を扶んで安定させ、その上にハンドルから繋がった鎌と支えが両方から交差して切る	当館 (柴田慎也氏)
112	唐棹		1	長175.4× 幅21.4	上部の打ち棒を回転させてレンゲを叩き、中から種を取るための道具。稲・麦・粟・稗・豆類の脱穀などにも使われた	当館 (中山武央氏)
113	写真「唐棹作業の図」		1	－	「ボータ叩き」ともよばれる	【中】
114	回転式足踏脱穀機		1	幅72.0× 奥行74.0× 高63.0	踏み板を足で踏んで胴を回転させ、胴に打ってある針金が稲の穂から粃粒を弾いて落とす農具。昭和30年代には動力脱穀機の普及によって使われなくなった	当館
115	写真「回転式脱穀機による脱穀」	昭和30年代	1	－		【高】
116	踏車		1	幅158.0× 奥行37.0× 高93.5	羽の部分に人が乗って踏むことにより、水位の低い堀から高い田へ水を上げることができる道具	当館 (中井七郎氏)
117	写真「踏車で田に水を入れる」	大正期	1	－	場所・高岡古城公園池の端掘	高岡市
118	米選機		1	幅120・5× 奥行50.8× 高94.5	玄米中に混ざる屑米の選別に用いられる道具。上から玄米を入れると、小さな屑米は線の隙間から落ちるが、良玄米は銅線上に残り、選別されるという仕組み。レバーや支脚の開閉で、粒の大きさを調節できる	当館 (中山武央氏)
119	写真「千石通しで玄米の選別」		1	－	土臼で粃摺りをした後の米と粃を選り分ける道具。「千石通し」や「万石」ともよばれる	【写】
120	写真「田植棒（コロガシ）で筋目付け作業」		1	－	コロガシで田植え作業の効率がぐんと上がった	【中】

121	田植え杵（コロガシ）		1	幅35.0× 奥行35.0× 高233.5	整地して水を張った田んぼで、杵を転がして四角の筋目をつけ、その交点に苗を植えていく。杵の部分が、鉄や塩ビ管でできたものもある	当館 （中井七郎氏）
122	唐箕		1	幅110.0× 奥行56.4× 高107.5	大豆用の唐箕。羽根板を回して生じる風により、下の口から大豆が出て、横の口から塵やくずなどが出る。製造元は高岡市百姓町（千石町）の宇於崎農機製作所	当館（山元醸造 株）・山本衛氏）
123	写真「唐箕による選別作業の図」		1	－	手前にある両方の口から、穀物が選り分けられて出てくる様子がわかる	【中】
124	写真「唐箕による粳の選別」		1	－	ハンドルの付いた羽根板を回して生じた風を利用して、粳殻を選別する大型農具。脱穀した粳の選別や粳摺り後の玄米と粳殻、屑米のほか、大豆や麦などの選別にも使われた	【写】
125	写真「馬を用いた田起こし作業」		1	－	馬に続いて男性が犁を持って作業している	【い】
126	写真「苗取り作業」		1	－	苗を取り束ねて、田植えの準備をする	【中】
127	写真「田舟を使った稲刈り作業」	昭和42年 (1967)	1	－	場所・埼玉県所沢市。田舟は主に湿田の稲刈り時に、刈り取った稲を湿田から畦や農道まで運ぶ道具。肥料や土を運ぶのにも使用した	【い】
128	写真「稲干し作業」		1	－	刈り取られた田んぼの上で、規則正しく稲が干される作業風景	【中】
129	写真「土臼での粳摺り」	昭和期	1	－	粳摺り用の土臼は、土に櫟や榎の木の歯を埋め込んだ上臼と下臼からなり、上臼の回転部分に取り付けられたヤングリ（遣り木）を、押したり引いたりして回して米と粳殻を分ける大型農具。高岡市内	高岡市
130	写真「いもの苗床づくり」		1	－	場所・高岡市島新	【中】
131	写真「南砺の干し柿作業風景」		1	－	冬季の副業として行った農家もあったという	【中】
132	写真「横田村共同倉庫開庫」	明治44年 (1911)	1	－	高岡市と合併する以前の横田村の農業倉庫。村内算出米の品質向上を目指して、産米組合と農業倉庫が設立された	【高】
133	写真「国分浜の天草干し」	昭和10年 (1935)頃	1	－	天草は国分浜沖の男島付近の海中から採る。戦前は男性が潜って採取し、女性が砂浜に広げ打ち水をし、日光にさらした	高岡市
134	写真「羽広の苺狩り」	大正初期	1	－	かつてあった広大な苺農園「羽広田園」で苺狩りをする人々。男性は背広にカンカン帽を被り、女性らは着物姿で楽しげな様子が伝わってくる	高岡市
135	鉄薬研		1	【器】 幅34.5× 奥行14.4× 高13.0 【薬研車】 径21.3× 幅24.2× 厚0.9	主に、薬種を細かく砕くために使われる。中に薬種を入れ、握り手を両手に持ち、前後に回転させる。多くは鉄製だが、木製・陶製・石製などもある	当館 （吉森義一氏）
136	長崎医院薬袋	大正期	1	15.3×11.0	高岡の蘭方外科医である長崎医院の内用薬袋。長崎家7代元貞の弟は、東西の文化交流に尽くした美術商・林忠正である	当館 （長崎圭爾氏）

137	金子為善堂小児薬「痢的」・「小児丸」	平成期	2	—	「痢的」は「痢おさえ」ともいわれ、ひきつけ・夜泣き・食欲不振等に効くとされ、子どもが生まれて100日間は飲ませるとよいとされた。「小児丸」は「胎毒くだし」ともいわれ、便秘やそれに伴う肌荒れ・腹部膨張等の緩和に効くとされた	当館 (金子崇氏)
138	配置薬箱（高岡市東下関・黒田孝治）	昭和27年 (1952)以降	1	幅17.0× 奥行20.5× 高10.4	配置薬（置き薬）を収納した薬箱。配置薬箱が預けられた家庭に半年から1年毎に訪問する担当販売員へ、使用した薬の代金を後払いする富山売薬伝統の販売方法（先用後利）であった	当館
139	（写真）引札「養順堂」	大正14年 (1925)	1	—	高岡市利屋町・養順堂（高岡の町医者・佐渡家）の引札。引札とは、商店が宣伝のために制作した広告チラシのこと	当館
140	（写真）引札「高岡薬剤株式会社 中村薬房」	明治後期～ 大正中期	1	—	高岡の中村薬剤の引札。高岡薬剤株式会社は昭和16年（1941）に高岡の豪商・岡本清右衛門と菅野伝右衛門らと合併し、大同製薬株式会社となったので、それ以前のものとなる	当館
141	（写真）引札「高岡市橋番町薬種売薬商 津島随吉」	昭和2年 (1927)	1	—	高岡市橋番町の薬種売薬商・津島随吉の引札。昭和3年の略歴、大小の月、様々な節句のほか、郵便為替料、電報料、種まき、日曜表なども刷られている	当館

※所蔵先の写真の出典は、【氷】『氷見市史』（氷見市役所、1963年）、【中】『中田町誌』（中田町誌編集委員会、1968年）、【写】『写真でみる農具・民具』（農林統計協会、1988年）、【台】『台所用具の近代史』（有斐閣、1997年）、【イ】『イラストで見るモノのうつりかわり 日本の生活道具百科』（河出書房新社、1998年）、【昭】『昭和のくらし博物館』（河出書房新社、2000年）、【い】『いまに伝える農家のモノ・人の生活館』（柏書房、2004年）、【高】『保存版ふるさと高岡』（郷土出版社、2009年）を示します。

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。写真・図・複数資料の寸法は割愛しました。



チラシ・ポスター



展示風景

2 教育・普及活動

(1) 郷土学習講座（全3回）

郷土の歴史・文化など幅広い分野について紹介し、理解を深めていただく連続講座を開催した。

〔第1講〕「アニメ聖地巡礼と富山県」

日 時：平成29年6月3日（土） 午後2時～3時30分

会 場：新館3階講堂

講 師：由谷裕哉氏（小松短期大学教授）

聴講者：30人

要 旨：アニメ聖地巡礼とは、アニメの舞台となった場所をファンが訪れる行為や、アニメに関連する神社に絵馬を奉納する行為をいう。聖地巡礼という言葉を使い始めたのは、『おねがい☆ティーチャー』（2002）というアニメのファンとされる。2002年頃からブログが流行すると、アニメの背景と同じ場所を捜して撮影し、それをアニメ画像と共に自分のブログにアップすることが流行した。これを聖地巡礼に含む見方もある。人によっては、アニメキャラクターと同じポーズをとるファンもいる。近年では、聖地巡礼をするファンの集客に注目した地元関係者が、街おこしのために独自のイベントを企画する例も見られる。例としては、アニメに出てきた祭りなどを実際に再現するといったものがある。聖地巡礼の対象となっている富山県内を舞台にしたアニメには、『true tears』（2008）、『ゆるゆり』（2011）などがある。『true tears』は、城端（南砺市）が舞台であり、高岡古城公園が数回登場している。今でもファンが、城端の曳山祭やむぎや祭と併せて巡礼している。『ゆるゆり』は、原作者が高岡市出身ということもあり、舞台は高岡市だと考えられている。古城公園内にある射水神社も聖地巡礼の対象となっている。射水神社は、旧日本海軍の軽巡洋艦神通の艦内神社であり、戦艦をテーマにしたゲーム『艦隊コレクション』のファンが訪れている。



由谷裕哉氏

〔第2講〕「加賀藩の測量術」

日 時：平成29年9月9日（土） 午後2時～3時30分

会 場：新館3階講堂

講 師：島崎毅氏（前射水市新湊博物館長）

聴講者：66人

要 旨：石黒信由（1760～1837）は、射水郡高木村（現在の射水市高木）出身の和算家・測量家である。加賀藩の命で、文政8年（1825）に「加越能三州図」を作製したことで知られる。信由の絵図作製

法は、はじめに測量結果を記入した野帳を地図化した切下絵図を使って郡図を作製し、次に郡図をつないで国絵図を作製、最後に三か国の国絵図を合わせて完成させるというものである。信由の絵図の精度の高さは、現在の地図と照らし合わせても遜色ないものである。

信由の正確な絵図作製を支えたものに和算があり、天文学・暦学・測量術・用水・河川修築・新田開発・地図の作製などに応用した。また、西洋数学を取り入れ、三角関数を利用した測量も行っている。信由の測量を助けた道具に強盗式磁石台がある。これは、西洋由来



島崎毅氏

の測量器具・^{わん か ら しん}彎窠羅針を改良したものである。台全体が傾いている場合でも、磁石盤を乗せる円形の台の部分は、常に水平を保てるような工夫がされており、不安定な場所での測量も可能とした。

信由には多くの門人がおり、その内の一人である砺波郡内島村（現在の高岡市内島）の十村として活躍した^{い が ら し あ つ よ し}五十嵐篤好（1793～1861）は、信由と協力して舟倉用水を完成させたことで知られる。信由の子孫も活躍しており、子・^{のぶやす}信易は父・信由の仕事を支え、新川郡内の新開地の測量を行った。孫・^{のぶゆき}信之は信由の絵図の改訂版を出した。信之の弟・^{きたもと}北本栗（北本家養子）と曾孫・^{のぶもと}信基は、慶応3年（1867）に越前敦賀から琵琶湖への運河計画に伴う測量を行った。信由の測量術は多くの者に受け継がれ、加賀藩にとって重要なものになっていったのである。

〔第3講〕「高岡と加賀藩」

日 時：平成29年11月25日（土） 午後2時～3時30分

会 場：新館3階講堂

講 師：長谷川孝徳氏（北陸大学教授）

聴講者：55人

要 旨：^{まえ だ としなが}前田利長（1562～1614）が高岡城に入城した慶長14年（1609）9月13日が高岡という町が誕生した日であり、町として成立した日が明確に特定できる例は全国的に珍しい。この事実は、為政者



長谷川孝徳氏

によって一から築かれた都市であり、現在に至る地域の歴史や伝統が、開町のその日から始まったものであることを意味している。また、江戸幕府の「一国一城令」（1615）により、高岡はわずか5年で城を失った城下町であるにもかかわらず、廃れることなく発展し、現在も人口20万人規模の都市として存続している点も珍しい。

高岡をここまで発展させた地理的な条件に、庄川などの水運を活用できたことが挙げられる。これにより、高岡が加賀藩の年貢米の集散地として交通と物流の要衝となり発展した。人為的な条件では、高岡町人自身のバイタリティが挙げられる。町奉行が置かれただけの高岡では、藩主の目から離れて自由な商売ができた。結果、実力のある商人や職人が現れ、文化的にも高い水準を誇る商工業都市へと成長した。

また、^{まえ だ としつね}前田利常（1594～1658）の保護政策の助けがあったことも高岡発展の一因となっている。利常は、高岡城の廃城に伴う城下町の衰退を止めるために、元和6年（1620）に高岡町人の転出を禁じる命令を出し、商工業都市への発展を図る施策を打ち出していった。その地域振興策の中心となったのが、兄利長の菩提所の整備事業だった。利長が葬られた法円寺を^{ずいりゅうじ}瑞龍寺と改め、菩提寺として伽藍の整備に着手した。

また、町の行政面においては、利常の時代以降、少しずつ高岡町人に権限が委譲されていった。高岡は、加賀藩が高岡町人たちに大きな役割と権限を与え、自治的な行政運営を推進したことによって、藩政期を通じて、商取引が盛んな経済都市へと成長した。このように、商工業都市として発展した高岡は、明治維新がもたらす新時代の波にも見事に対応し、明治22年（1889）4月1日には、全国で初めて市制を施行した31都市の一つとして「高岡市」が誕生し、現在まで大いに発展したのである。

(2) 展示説明会

① 特別展・展示説明会（全3回）

〔第1回〕

日 時：平成29年7月29日（土）

参加者：16人

〔第2回〕

日 時：平成29年8月26日（土）

参加者：27人

〔第3回〕

日 時：平成29年9月30日（土）

参加者：17人

② 館蔵品展・展示説明会

〔第1回〕

日 時：平成29年4月15日（土）

参加者：17人

〔第2回〕

日 時：平成29年5月6日（土）

参加者：6人

(3) 古文書講座「初めての古文書教室」(全6講)

当館では、高岡に関する古文書を多数収集・保管している。高岡の歴史や古文書に関する市民への理解を深めるため、実施した。全6講の連続講座。受講者累計248人。

〔第1講〕

日 時：平成29年8月4日（金） 午後2時～3時30分（以下同）

会 場：新館3階講堂（以下同）

講 師：仁ヶ竹主査学芸員（以下同）

受講者：46人

〔第2講〕

日 時：平成29年8月18日（金）

受講者：39人

〔第3講〕

日 時：平成29年9月1日（金）

受講者：42人

〔第4講〕

日 時：平成29年9月15日（金）

受講者：41人

〔第5講〕

日 時：平成29年9月29日（金）

受講者：39人



古文書講座

〔第6講〕

日 時：平成29年10月13日(金)

受講者：41人

(4) ワークショップ等

① 屋上開放「古城公園展望台」（桜の満開時期に合わせて開催）

日 時：平成29年4月13日(金)～16日(日)

時 間：いずれも午前10時～午後3時30分

〔各種イベントの開催〕

- ・高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」による
屋上解説

4月13日(木)～16日(日) ※時間中随時

- ・高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」
“さくらカフェ”

4月14日(金) コーヒー（お菓子付）販売

会 場：新館屋上

来場者数：2,288人（4日間22時間の累計）



屋上開放

② 呈茶の会「松聲庵－博物館で抹茶を楽しみませんか－」

日 時：平成29年4月8日(土) 午前10時～午後3時

協 力：新田宗美氏（茶道裏千家正教授）含め社中の方
11名

参加者：168人



呈茶の会（春）

③ 呈茶の会「松聲庵－博物館で抹茶を楽しみませんか－」

日 時：平成29年11月4日(土) 午前10時～午後3時

協 力：近藤宗美氏（茶道裏千家正教授）・西 宗範氏
（茶道裏千家教授）含め社中の方10名

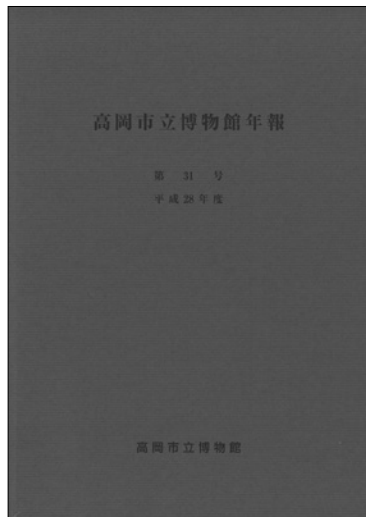
参加者：185人



呈茶の会（秋）

(5) 刊行物の発行

- ・ 特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」パンフレット（A4判、12頁、1,000部）
- ・ 機関誌『博物館だより』第24号（A4判、4頁、3,000部）
- ・ 年 報『高岡市立博物館年報』第31号（平成28年度）（A4判、43頁、200部）



『高岡市立博物館年報』第31号



「博物館だより」第24号

(6) 団体見学、展示解説対応

団体見学 計93件（計2,513人）、うち展示解説12回

〔団体一覧〕

月日	団体名	人数	展示解説
4月 5日	とやまさくら守の会	8人	
	保与の会	8人	1回
7日	クラブツーリズム東京北陸城めぐりツアー	40人	
8日	クラブツーリズム東京北陸城めぐりツアー	31人	
	トラベルマスターズ	24人	
	クラブツーリズム東京	73人	
9日	高岡観桜会	20人	
	クラブツーリズム	22人	
	クラブツーリズム	11人	
	クラブツーリズム	27人	
11日	クラブツーリズム東京	20人	
13日	クラブツーリズム東京	12人	
	クラブツーリズム東京	71人	
16日	クラブツーリズム東京	18人	
18日	クラブツーリズム東京	106人	
19日	クラブツーリズム東京	23人	
20日	クラブツーリズム東京	34人	
	クラブツーリズム東京	35人	
21日	第27回東海北陸都市教育長協会議	18人	1回
23日	クラブツーリズム東京	27人	
5月 1日	金山会	6人	
10日	高陵町サロン	22人	1回
12日	あなぶきツアー	21人	
14日	岐阜バスおもしろツアーズ	15人	
18日	ドン・ボスコ社	18人	
	クラブツーリズム	18人	
24日	高岡市立千鳥ヶ丘小学校3年生	58人	
25日	富山市岩瀬中学校1年生	49人	
27日	やまたちばなの会	56人	
6月 1日	高岡市立伏木小学校5年生	37人	
7日	富山市立新庄中学校1年生	29人	
13日	クラブツーリズム	33人	
21日	カルチャークラブ日本百名城	29人	
23日	高岡市立二塚小学校3年生	33人	1回
29日	高岡市立牧野小学校5年生	84人	1回
	タビックス	30人	
7月2日	サンケイトラベル	47人	
4日	高岡市立中田小学校3年生	51人	
14日	高岡市芳野中学校2年生	5人	
15日	帯広洋服商工業組合	4人	1回
22日	吉久デイスサービスむら花	6人	
8月 1日	こぶし園デイスサービスセンター	21人	
	りらいあんすデイスサービス	25人	
4日	まちっこプロジェクト	10人	
17日	金沢市かみやち児童クラブ	16人	
30日	高岡市連合自治会	37人	1回
9月3日	阪急交通社	27人	

月日	団体名	人数	展示解説
10日	となみ遊歩会	14人	
20日	石川県宝達志水町立樋川小学校3,4年生	48人	
21日	しらとり支援学校高等部2年生	13人	
28日	高岡市立東五位連合自治会・公民館	24人	1回
	富山市城山中学校1年生	12人	
29日	クラブツーリズム北陸名城めぐり	31人	
10月3日	高岡市東五位小学校4年生	26人	1回
	遠州鉄道（株）こだわり紀行	17人	
	高岡交通株式会社	9人	
8日	みんなdeきもの	21人	
	クラブツーリズム北陸6城めぐり	18人	
11日	クラブツーリズム北陸6城めぐり	26人	
12日	金沢市立小将町中学校2年	10人	
	金沢市立小将町中学校特学分校	9人	
15日	富山市水橋東部体協会	15人	
22日	SET-KMQ-1021ツアー	36人	
	クラブツーリズム	12人	
27日	遠州鉄道（株）こだわり紀行	16人	
28日	クラブツーリズム北陸名城めぐり	25人	
11月2日	富山市立四方小学校6年生	6人	
3日	クラブツーリズム秋の北陸7名城めぐり	38人	
4日	グリーンツーリズム北陸名城めぐり	22人	
8日	阪急交通社北陸8名城	10人	
9日	りらいあんすグループホーム	11人	
10日	クラブツーリズム東京	38人	
11日	ツーリズム神奈川	14人	
12日	阪急交通社関東	42人	
14日	南太15ふれあいサロン	8人	
	阪急交通社東京	40人	
	明治大学考古学専攻クラス会	14人	1回
15日	阪急交通社関東	40人	
19日	高岡古城公園を愛する会	22人	
	クラブツーリズム名城めぐり	32人	
	クラブツーリズム名城めぐり	41人	
21日	阪急交通社	25人	
24日	阪急交通社	20人	
	阪急交通社	36人	
26日	クラブツーリズム名古屋	14人	
28日	阪急交通社	14人	
12月2日	射水市立大門中学校美術部	24人	
8日	読売ツアー	9人	
22日	富山大学芸術文化学部	25人	1回
2月16日	高岡市立下関小学校3年生	99人	1回
22日	金沢大学アカベラサークルmelomelo	12人	
3月15日	クラブツーリズム関西	42人	
16日	クラブツーリズム北陸5つの城めぐり	18人	
	計93件	2,513人	12件

(7) 他団体への協力

①講師の派遣 計16件

〔講師派遣一覧〕

月日	依頼者 会合名	演題・内容	講師
4月19日	高岡らっこの会 総会講演会	「歴史都市・日本遺産 『高岡』の魅力」	仁ヶ竹主査学芸員
4月21日	東海北陸都市教育長協議会 第27回協議会総会・研究大会（平成29年度 高岡大会）	当館・高岡城跡案内	仁ヶ竹主査学芸員
6月3日	高岡市二上公民館 高岡市二上公民館歴史講座	「古文書に見る二上の歴史」	仁ヶ竹主査学芸員
7月17日～ 7月31日 11月4日～17日 放送	高岡ケーブルネットワーク (番組出演)	『歴史都市 高岡ふしぎ帖』 ・シーズン5「高岡災害 編（第3話）」 ・シーズン6「戸出四百年編（第3話）」	仁ヶ竹主査学芸員
7月31日	JA高岡女性部いなほ会 総会講演会	「高岡の歴史と旧町名」	仁ヶ竹主査学芸員
8月28日～ 9月3日放送	高岡ケーブルネットワーク (番組出演)	特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」の紹介	伊東学芸員補
9月19日	高岡市立東五位小学校 創校記念講演会	「郷土の偉人 五十嵐篤好翁」	仁ヶ竹主査学芸員
10月2日～15日 放送	高岡ケーブルネットワーク (番組出演)	『高岡しつとる検定』 「#1 高岡古城公園検定」	仁ヶ竹主査学芸員
10月12日	北日本放送（株）（ラジオ） ラジオインタビュー（電話出演）	『でるラジ』「千客万来！いらっしゃ～い／先生！勉強になります」	仁ヶ竹主査学芸員
10月13日	高岡地区高等学校教頭会 研修講演会	「高岡城の魅力」	仁ヶ竹主査学芸員
12月2日	富山県民生涯学習カレッジ ふるさと発見講座／人間探求コース「ふるさとの歴史・人・文化」講演会	「気骨の民権政治家 島田孝之」	仁ヶ竹主査学芸員
12月13日	高岡税務署 教養講話	『「大千保川」と高岡城』	仁ヶ竹主査学芸員
12月15日・ 1月26日・ 2月9日・23日	高岡市福岡歴史民俗資料館 古文書講座	古文書講座の講師	仁ヶ竹主査学芸員
1月27日	JA高岡青年部 青年大会講演会	「高岡城の魅力」	仁ヶ竹主査学芸員
3月15日	高岡市観光協会 古地図でめぐるまち歩きツアーの観光ガイド実地研修会	「古地図でめぐる加賀前田家ゆかりの町・高岡」 ツアーガイド講師	仁ヶ竹主査学芸員
3月18日	平米町自治会 講演会	「高岡の母衣武者祭り」	仁ヶ竹主査学芸員

②委員の派遣 計3件（うち会合5件）

- ・平成の御車山制作実行委員会（「平成の御車山」の制作会議2回、新井館長）〔継続〕
- ・富山県公文書館（平成28・29年度富山県公文書館古文書調査員2回、仁ヶ竹主査学芸員）〔継続〕
- ・伝統工芸高岡銅器振興協同組合（生型鑄造法の国伝統的工芸品追加申請に伴う産地専門委員1回、仁ヶ竹主査学芸員）〔継続〕

③資料貸出 計10件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	宇多刀（3口）ほか刀剣類（刀掛25基）	7	高岡市福岡歴史民俗資料館	「越中福岡の刀匠 宇多派の世界」展（会期：H29.9/23～12/3）
2	越中国分寺跡出土 軒丸瓦・軒平瓦	2	高岡市美術館	「大伴家持生誕1300年記念「家持の時代」展（会期：H29.9/22～10/22）
3	高峰譲吉関係資料（当館蔵・高峰譲吉博士顕彰会蔵）	13	高峰譲吉博士顕彰会	高峰譲吉博士移動資料展（H29.10/8高岡市立千鳥丘小学校、10/15高岡市立福岡中学校）
4	尾崎家資料	一括	個人	尾崎康工関係資料の調査のため
5	尾崎康工関係資料	一括	戸出御旅屋の門保全会	戸出地区文化祭（H29.11/4～5）
6	塗師屋八兵衛「朱草花文菓子取」など	15	高岡市美術館	「国際工芸サミット高岡に開く工芸の華」展（会期：H29.11/16～30）
7	真空管ラジオ、蠟管蓄音機など	5	高志の国文学館	「竹久夢二音楽を描く」展（会期：H29.12/16～H30.2/26）
8	天神堂、武生天神など	6	土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会	「第17回山町筋の天神様祭」（会期：H30.1/20～21）
9	富山土人形「内裏雛」（一对）、神雛（掛軸）	2	金沢くらしの博物館	「ひな飾り展～おひな様の嫁入り道具～展（会期：H30.2/24～4/8）
10	高山土人形など	18	土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会	「第18回山町筋のひなまつり」（会期：H30.3/10～11）

④写真提供 計39件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	絵葉書「郵便局前通り」など	16	高岡まちっこプロジェクト	山町ヴァレーでの展示、資料、地図作成
2	第13回国民体育大会天皇・皇后両陛下末広町御通過、拡張前の駅前広場（高岡市蔵）	2	読売新聞高岡支局	読売新聞富山県版（5月予定）
3	駅関係写真	9	TBS商店会クルン高岡B1ギャラリー	「写真展一昔の高岡駅地下街と高岡ステーションデパートと高岡駅一」（会期：H29.7/29～9/30）
4	富山県石動町俱利伽羅案内パノラマ地図	2	個人	俱利伽羅地域の調査・研究のため
5	北陸線高岡名勝絵葉書/越中高岡市街（守山町通り）大正中期頃など	7	ラックプロ株式会社	アリタ150周年記念映像（H29.5.25完成予定）
6	写真絵葉書「高岡古城公園」（鍛冶丸二の丸土橋より本丸土橋を望む）	1	北日本新聞社	朝刊記事掲載（H29.6頃掲載）
7	高岡絵図類	4	高岡商工会議所青年部	高岡商工会議所青年部例会資料

8	戸出野開御印状	1	高岡法科大学准教授本多俊彦氏	戸出地区講演のため文書原本調査
9	林忠正著『高岡銅工ニ答フル書』明治19年	1	有限会社青青編集	『オークス会報』2017夏秋号
10	藩政時代の花形消防具「龍吐水」など	6	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「歴史都市高岡ふしぎ帖」シーズン5「高岡災害編」(第3話)(H29.7/17～31放送)
11	吉田初三郎筆「高岡市鳥瞰図」(1932年)など	3	株式会社国書刊行会	『吉田初三郎 日本全国鳥瞰図集成』(仮題)(H30.10月頃発行)
12	林忠正肖像写真(長崎家蔵)	1	株式会社富山県人社	月刊『富山県人』7月号「とやま偉人列伝」
13	絵葉書「越中高岡市街」	1	読売新聞高岡支局	読売新聞富山県版「ふるさと写真館」(H29.6月頃発行)
14	「軽井沢鳥瞰図」昭和9年	6	軽井沢町教育委員会生涯学習課	資料台帳整備
15	高岡中古之図など	7	株式会社大広北陸	北日本新聞創刊133周年特集号(H29.8.1)
16	「高岡市街図」大正7年など	9	個人	研究
17	鉄鍋、鉄釜など	5	株式会社TBSテレビ	番組「ふるさとの夢」(H29.9/3放送)
18	徳川家康書状(北条氏規宛)	1	戒光祥出版株式会社	黒田基樹著『図説戦国北条氏と合戦』
19	越中国射水郡高岡町全図(明治8年/1875年)など	7	個人	卒業設計課題による対象敷地の調査
20	長着、もんぺ等民具	8	有限会社ワンステップ	児童書『昔の道具大事典(仮)』
21	古写真赤レンガの高岡共立銀行落成式」1914年	1	高岡まちっこプロジェクト	山町ヴァレーでの資料、地図作成
22	戸出御藩蔵御囲地等絵図(『戸出史料』付図)	1	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「歴史都市高岡ふしぎ帖」シーズン6「戸出四百年編」(第4話)(H29.12/18～31放送)
23	前田利長画像	1	株式会社碧水社	「週刊ビジュアル戦国王」第83号(H30.1.23発売)
24	前田利長書状(年末詳五月三十日付)	1	ザ・ウエスト	JR西日本広報部発行ブルーシグナル176号(H30.1.15発行)
25	高岡市付近平面図など	3	高岡市総務課危機管理室	防災講演会
26	高岡商店双六(大正年間)、寺子屋之図	2	個人	「山町筋の天神祭」での自身講演会資料(H30.1.21)
27	高岡城跡画像	9	株式会社風来堂	『日本200名城ガイド(仮)』(H30.3月上旬発行予定)
28	東京音楽学校時代の室崎琴月(T4)、室崎琴月(S40)	2	高志の国文学館	企画展「竹久夢二 音楽を描く」関連文学講座
29	高岡売薬版木	1	富山県厚生部くすり政策課	文化庁の日本遺産申請書の使用、HPの提出
30	帆船と蒸気船	1	富山県教育委員会県立学校課	高校の郷土史・日本史補助教材(富山県教育員会刊)
31	「越中国射水郡高岡町全図」(明治8年)、「高岡公園指定請願書書付図」(明治後期写)	2	建設技研コンサルタンツ株式会社	地籍調査に伴う、筆界(字界)調査
32	「高岡中古之図」1764～81年頃(『高岡史料』1972年復刻版付属図)	1	公益財団法人高岡市観光協会	ガイド付きツアー商品「古地図でめぐる加賀前田家ゆかりの町・高岡」の配付のため
33	ポスター「お酒は黄桜」	1	株式会社創輝	BS日テレ「スター波乱万丈列伝」にてCMソングを歌った大川栄作氏のエピソード紹介のため

34	「帆船と蒸気船」	1	北日本新聞社	北日本新聞こどもページ「タイムスリップ 明治のとやま」に掲載
35	長谷川義起作「国技」建立除幕式写真	1	射水市市民生活部地域振興・文化課	長谷川義起の調査・研究のため
36	「高岡中古之図」	1	高岡市デザイン工芸センター	情報誌「ムーヴィン」26号掲載（平成30年3月発行）
37	高岡城跡古写真、高岡市街古写真	一括	株式会社アーキジオ	高岡城跡保存活用における展示計画（ARデータ作成）
38	高峰譲吉肖像写真	1	NHKエデュケーショナル教育本部大学業務室	理化学研究所、放送大学共同制作番組「科学技術立国への挑戦」（3月31日放送大学チャンネルで放送）
39	「越中国射水郡高岡町全図」（1875年）、「上川原町絵図」（1699年）	2	高岡商工会議所	高岡商工会議所会報「たかおか」に掲載（5月号予定）

⑤資料撮影・掲載 計14件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	越中国射水郡高岡旧旅屋門前見取絵図	1	個人	調査研究
2	越中国高岡関野神社祭礼繁盛略図附録	1	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「高岡御車山祭中継放送」に使用するため（H29.5/1,3,4,6,7放送）
3	腕用ポンプ、鳶口、纏、火事装束など	12	高岡ケーブルネットワーク株式会社	『歴史都市 高岡ふしぎ帖』シーズン5「高岡災害編（第3話）」（H29.7/17～31放送）
4	利長くんパネル（兜）	1	富山テレビ放送	顔出しパネルを特集した企画取材（H29.7/15放送）
5	常設展「戦時下の暮らし」コーナー	4	朝日新聞社富山総局	紙面掲載
6	常設展「高岡大仏」コーナー資料（小型尊像、大仏まつりポスターなど）	4	志貴野中学校	富山県ひとづくり財団富山県教育記念館郷土先賢部会資料作成
7	谷道文開堂看板資料	2	株式会社町衆高岡	山町ヴァレーの紹介用パンフレット
8	宇多刀	3	個人	調査研究
9	越中国射水郡高岡町全図	1	個人	調査研究
10	糸杵、戸出野開御印状など	4	高岡ケーブルネットワーク株式会社	『歴史都市 高岡ふしぎ帖』シーズン6「戸出四百年編（第3話）」（H29.11/6～12/31放送予定）
11	萩原模編「雲龍山勝興寺系譜」	1	高岡商工会議所	調査研究
12	万国博覧会及び内国勸業博覧会関連資料	一括	国立科学博物館理工学部研究主幹	調査研究
13	神保氏張年貢請取状	1	個人	郷土史研究
14	高岡城下ジオラマ、前田利長書状、金屋町拝領地絵図	3	株式会社京阪神エルマガジン社	JR西日本北陸新幹線車内誌「西Navi北陸4月号」での前田利長特集での紹介

⑥その他の協力

- ・高岡市教育委員会学校教育課「高岡再発見プログラムⅥ」（スタンプラリー）

期 間：平成29年4月29日～12月18日

合 計：1,164人

- ・(公財)日本城郭協会「日本100名城スタンプラリー」
期 間：平成19年度～
- ・高岡市教育委員会「ものづくり・デザイン科」にかかる学校への団体解説（1件）
- ・高岡ケーブルネットワーク番組『歴史都市 高岡ふしぎ帖』シーズン5「高岡災害編（第3話）」、
シーズン6「戸出四百年編（第4話）」にかかる写真等資料提供・出演（7月17～31日、11月4～17日
放送）
- ・高岡ケーブルネットワーク番組「高岡知っとる検定（＃1高岡古城公園検定）」館内案内・出演
（10月2～15日放送）
- ・高峰譲吉博士顕彰会「高峰譲吉博士移動資料展」（10月8日：千鳥丘小学校／10月15日：福岡中学
校）にかかる高峰譲吉関係資料の貸与・展示監修
- ・戸出御旅屋の門保全会「戸出町開町400年記念 戸出地区文化祭」（11月4～5日）にかかる資料貸
与・展示作業・監修
- ・富山大学芸術文化学部「博物館展示論」講義・展示解説（12月22日）
- ・土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会「第17回山町筋の天神様祭」（平成30年1月20～21日）、
「第18回山町筋のひなまつり」（平成30年3月10～11日）にかかる資料貸与・展示監修

（８）レファレンス

高岡の歴史・文化などに関わる照会・回答 94件

（９）インターネットによる広報・普及

- ・ホームページ 年間総アクセス数 196,285件
- ・資料情報の「文化遺産オンライン」（文化庁運営）公開件数 計727件
- ・発行済の館報「博物館だより」（23件）、展示解説「博物館ノート」（10件）の公開
- ・当館公式ツイッター（フォロワー533人、ツイート2,452回、いいね1,092件）、フェイスブック（投
稿797件、いいね！2,092件）による広報
- ・平成29年2月4日より収蔵展示資料の撮影、ネットへの公開を個人利用に限り許可

3 収集・保存活動

（１）購入資料（計32件344点。受入順。一括資料は仮に100点と計上）

No.	資料名称	数量	分類
1	射水郡円池又新村絵図類	(一括)	歴史
2	真宗大谷派14世琢如消息	1	歴史
3	絵葉書「突提より眺たる射水川の全景」	1	歴史
4	絵葉書「（越中雨晴）雨晴全景」	1	歴史
5	絵葉書「（越中名勝）伏木港」	1	歴史
6	加賀藩試鑄銭（五百文）	1	歴史
7	筏井竹の門筆「松図」	1	美術

8	山口花笠筆「大和路俳句」	1	美術
9	木村天紅作 縄目菱文乾漆壺	1	民俗
10	五十嵐篤好著『言霊真澄鏡』壺（写本）	1	歴史
11	「越中国射水郡高岡地図」	1	歴史
12	棚田家文書	（一括）	歴史
13	東林雪象筆「一行書」	1	美術
14	石黒信由著『渡海標的』	1	歴史
15	五十嵐篤好著『湯津爪櫛 よる藻』（稿本）	1	歴史
16	「砺波郡御巡見御道筋手絵図」	1	歴史
17	高岡劇場スクラップブック	8	歴史
18	二代歌川広重画「諸国六十八景／越中青城山」	1	美術
19	引札「伏木港 定塚三右衛門・同回漕部」	1	民俗
20	越中北前船破船荷物分散帳等関係史料	5	歴史
21	越中高岡坂下極楽寺「円光大師（法然上人）御絵伝下図」	1	歴史
22	太政官布告（越中国射水郡は七尾県より新川県へ）	1	歴史
23	伏木町・堀久助宛感謝状・依頼状類	4	歴史
24	伏木小学校等修業・卒業証書等類（堀家宛）	20	歴史
25	絵葉書（高岡御車山・城端曳山祭礼）	13	歴史
26	島田孝之「五律」（本林篤追悼）	1	美術
27	絵葉書（城端曳山祭礼）	14	歴史
28	高岡関係絵葉書	43	歴史
29	『富山県伏木港概要』（伏木港振興会発行、昭和7年）	1	歴史
30	高岡－戸出－出町乗合自動車時刻表 （豊岡自動車部／昭和9年）	1	歴史
31	SPレコード「新高岡音頭／新高岡小唄」高岡市観光協会制作	1	民俗
32	家庭用ゲーム機類	15	民俗

（２）寄贈資料（計16件911点、受入順。一括資料は仮に100点と計上）

No.	資料名称	数量	分類	寄贈者
1	絵葉書（高岡小唄一、二）	2	歴史	川原一貢氏
2	火鉢（幾何学文火鉢、海鼠火鉢）	2	民俗	菊田明美氏
3	衣紋掛け	1	民俗	
4	木村天紅作「楽字文乾漆隅切方盆」	1	民俗	匿名希望
5	絵葉書「雨晴より岩崎鼻を望む」	1	歴史	
6	磁石式電話機	3	民俗	小川憲治氏
7	『中越商工便覧』（初版）	1	歴史	和田啓子氏
8	尾崎家関係資料	（一括）	歴史	尾崎安治氏

9	五十嵐家文書	(一括)	歴史	五十嵐篤氏
10	泉家資料	(一括)	歴史	泉 卓也氏
11	般若家文書	(一括)	歴史	般若陽子氏
12	藤平家資料	(一括)	歴史	藤平和子氏
13	小林家文書	(一括)	歴史	古谷昭史氏
14	高岡銅器問屋・大橋三右衛門関係資料	(一括)	歴史	大橋秋肥氏
15	篠島家資料	(一括)	歴史	篠島平男氏
16	神初家文書	(一括)	歴史	神初豊一氏

※登録済資料のみ掲載。ほかに調査中の寄贈資料多数。

収蔵資料分類一覧表

資料別大分類		区 分	件数	点数
I 歴史資料	810件8,646点	1. 歴史資料	810件	8,646点
II 民俗資料	1,022件6,954点	1. 衣食住	450件	3,765点
		2. 交通 運輸 通信	45件	61点
		3. 民俗芸能 娯楽 遊戯等	213件	1,619点
		4. 人生儀礼	21件	49点
		5. 交易	94件	295点
		6. 民俗知識	131件	739点
		7. 年中行事	27件	346点
		8. 社会生活	30件	57点
		9. 信仰	11件	23点
III 産業資料	455件7,834点	生産 生業資料	455件	7,834点
IV 美術資料	528件818点	1. 金工	84件	105点
		2. 漆芸	90件	171点
		3. 陶芸	50件	97点
		4. 木竹石工	4件	28点
		5. 染織	5件	5点
		6. 日本画	132件	154点
		7. 洋画・版画	42件	86点
		8. 彫刻	22件	23点
		9. 書	99件	149点
総 計	2,815件24,252点		2,815件	24,252点

※平成29年度受け入れ分より、一括資料を100点として計上。

(平成30年3月末現在)

(3) 保存活動

展示室・収蔵庫等の温湿度管理、裏打・軸装、桐箱作成、中性紙封筒・箱での保存、収蔵庫清掃、害虫侵入対策、二酸化炭素ガスによる資料燻蒸等

4 調査・研究活動

- (1) 収蔵資料及び未調査資料の調査整理（調査・整理・登録・撮影・データベース化等）
- (2) 収蔵資料の収集・分類・整理方針にかかる調査研究
- (3) 今後の企画展（特別展・館蔵品展等）、常設展にかかる調査研究
- (4) 各種研究会・研修会、講座等への参加 計6件
 - ・富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会 平成29年度総会・講演会（5月18日）
 - ・伝統工芸高岡漆器協同組合 講演会（5月26日）
 - ・北信越博物館協議会 平成29年度総会・研究協議会（6月6日）
 - ・富山県博物館協会 理工・自然史系学芸員研修会（6月22日）
 - ・文化庁 第7回ミュージアム・エデュケーター研修（前期：9月6～8日／後期：平成30年2月1～2日）
 - ・富山県博物館協会 研修会（平成30年3月20日）
- (5) 収蔵資料情報のデジタル化による資料管理（デジタル・アーカイブの推進）
- (6) 国登録有形民俗文化財「高岡鋳物の製作道具及び製品」の国指定重要民俗文化財指定に向けた当館収蔵鋳物資料の調査
- (7) その他の調査・研究

5 高岡市立博物館に親しむ会との連携

高岡市立博物館に親しむ会は、博物館の活動を支援するほか、高岡の歴史と文化に親しみ、相互に親睦を図る活動を行うことを目的に平成25年3月6日に設立されたものである。郷土高岡への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりを進めている。

○会員数 332件（一般318件、賛助14件）

・総会

日 時：平成29年4月19日（水） 午後1時～

会 場：新館3階講堂

内 容：平成28年度事業報告、収支決算報告ならびに平成29年度事業計画（案）、
収支予算（案）、役員の改選など

○記念講演会

演 題：「勝興寺－大修理のいま、これから」

講 師：高田克宏氏〔（公財）勝興寺文化財保存・活用事業団専務理事、学芸員〕

・広報部会（計2回）

日 時：平成29年6月28日（水） 午後1時30分～、平成30年3月15日（木） 午前10時～

・ワークショップ部会

日 時：平成30年2月15日(木) 午前10時～

・研修部会

日 時：平成30年3月2日(金) 午後1時30分～

・役員会

日 時：平成30年3月23日(金) 午前10時～



総会

〔事業〕

・郷土史を訪ねて①「歩く博物館 ～1万歩ウォークでふるさと再発見～」(全3回。参加者累計92人)

〔通算19回〕中世の街道と歴史を歩く (バス・徒歩)

日 時：平成29年5月9日(火) 午前9時50分～12時30分

講 師：樽谷雅好氏 (同会研修部会長。高岡市児童文化協会副会長。以下同)

参加者：27人

〔第20回〕金沢で高岡を^{さが}探すー前田120万石と高岡ー (電車・バス・徒歩)

日 時：平成29年9月12日(火) 午前8時30分～午後2時

参加者：37人

〔第21回〕「旧・千保川」と「ガメ川」の痕跡を^{なぞ}擦る (徒歩)

日 時：平成29年11月14日(火) 午前10時～

参加者：28人

・郷土史を訪ねて②「走る博物館 ～還暦過ぎの修学旅行～」(全2回。参加者累計51人)

〔第1回〕越中の大仏ー呉西の五大仏ー (バス)

日 時：平成29年6月13日(火) 午前9時～午後4時

参加者：25人

〔第2回〕勝興寺と一向一揆の歴史を学ぶ (バス)

日 時：平成29年10月10日(火) 午前8時30分～午後4時

参加者：26人



第20回 歩く博物館「金沢で高岡を^{さが}探す」
(金沢・尾山神社前にて)



第1回 走る博物館「越中の大仏」
(庄川大仏前にて)

- ・郷土史を訪ねて③「千保川を呑むー下流域篇「勝駒」を味わう」
日 時：平成29年10月24日(火) 午前9時～
講 師：樽谷雅好氏（同会研修部会長。高岡市児童文化協会副会長）
参加者：9人

- ・「呈茶席」（全8回。全て土曜日）
日 時：平成29年4月22日、5月6日、5月13日、5月20日、9月16日、9月30日、10月21日、10月28日
各日午前11時～午後3時
会 場：茶室「松聲庵」
協 力：近藤宗美氏（同会ワークショップ部会長。
茶道裏千家淡交会正教授）ほか
参加者累計：190人



呈茶席

- ・「高岡古文書ボランティア」＜平成27年4月設立＞（全12回。原則第3土曜日）
日 時：（本年度通算23回～34回）平成29年4月15日、5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、
9月16日、10月21日、11月18日、12月16日、平成30年1月20日、2月17日、3月17日
各日午後2時～午後3時30分
会 場：新館第2企画展示室
参加者累計：215人

- ・広報誌「鍛冶丸」発行
第8号（A4版、総頁数4、600部）
第9号（A4版、総頁数6、600部）

〔ボランティア活動協力〕

- ・親しむ会事業（歩く博物館3回、走る博物館2回、呈茶席8回、千保川を呑む1回）
受付等ボランティア のべ24人
- ・博物館事業（屋上開放4日間、呈茶の会2回、郷土学習講座3回）
受付・駐車場整理等ボランティア のべ18人

〔役員名簿〕

役職	氏 名	所 属	備考
会 長	太 田 久 夫	前富山県郷土史会会長	
副会長	多 田 慎 一	裏千家淡交会高岡支部副支部長	
	神 保 成 伍	元高岡市立博物館館長	企画運営委員長
	晒 谷 和 子	元高岡市立博物館館長	

理 事	荒 俣 勝 行	美術コレクター	
	水 野 俊 雄	高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」	
	岡 田 有 弘	岡田美術店	
	清 水 静 子	観光ガイドボランティアグループ「あいの風」	
	立野井 亮	高岡商工会議所青年部理事	
	樽 谷 雅 好	公益財団法人 高岡市民文化振興事業団評議員	研修部会長
	水 上 悦 子	版画家	
	近 藤 昭 美	茶道裏千家淡交会正教授	ワークショップ部会長
	般 若 慎一郎	金屋町まちづくり協議会会長	広報部会長
	西 範 子	茶道裏千家淡交会教授	※平成29年度新規
	小 嵐 晴 美	古儀茶道藪内流教授	※平成29年度新規
監 事	中 尾 光 博	高岡市立博物館に親しむ会元事務局長	
	宇 波 真一郎	高岡古城ライオンズクラブ	

※平成29年度総会より「幹事」を「理事」に改称。

(敬称略・順不同。任期：平成29～30年度)

Ⅱ 管理運営の状況

1 職員名簿

職 名	氏 名	任 用
館 長	新 井 雅 夫	公益財団法人高岡市民文化振興事業団嘱託職員
副 館 長	柴 田 和 宏	公益財団法人高岡市民文化振興事業団嘱託職員
主査学芸員	仁ヶ竹 亮 介	公益財団法人高岡市民文化振興事業団職員
学 芸 員	宇 川 恵 里	公益財団法人高岡市民文化振興事業団職員
学 芸 員 補	北 野 晶 子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団非常勤職員
事 務 員	生 源 貴 子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団非常勤職員
学 芸 員 補	増 田 豊	公益財団法人高岡市民文化振興事業団非常勤職員
学 芸 員 補	伊 東 梨 愛	公益財団法人高岡市民文化振興事業団非常勤職員
学 芸 員 補	坂 田 吏永子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団非常勤職員

※受付員：野村明美、島寿男、山田早苗、武部千代子、橘規矩雄、本保澄雄

2 歳出予算（平成29年度事業別）

	事業名	前年度	本年度	差異
管理費	施設管理費	11,414	15,317	3,903
	人件費（事業団職員分のみ）	11,946	18,675	6,729
	小 計	23,360	33,992	10,632
事業費	調査研究費	643	509	△134
	講演講習会費	357	325	△32
	資料整備保存費	4,423	5,785	1,362
	特別展	902	599	△303
	常設展（企画展等含む）	2,987	585	△2,402
	小 計	9,312	7,803	△1,509
合 計		32,672	41,795	9,123

3 高岡市立博物館協議会

分 野	氏 名	役 職 等
学識経験者	神 保 成 伍	元高岡市立博物館館長
	日 和 祐 樹	元高岡市福岡歴史民俗資料館学芸員
	中 葉 博 文	富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター副所長
学校教育	秋 野 信 義	高岡市小学校長会代表（高岡市立東五位小学校長）

学校教育	蟹谷規芝子	高岡市中学校長会代表（高岡市立こまどり支援学校長）
	中村達麻呂	高岡地区高等学校長会代表（高岡南高等学校長）
社会教育	沢田健寿	高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」参与
	小泉弘子	地域女性ネット高岡会長
	中山真紀	高岡市PTA連絡協議会副会長
その他	清水悟	高岡商工会議所青年部（平成29年度観光振興委員長）
	川津良成	伝統工芸高岡銅器振興協同組合副理事長
	武蔵川義則	伝統工芸高岡漆器協同組合副理事長

〔敬称略・順不同。任期2年（平成30年2月1日～平成32年1月31日）〕

4 高岡市立博物館条例

平成17年11月1日
条 例 第206号

- （設置）
第1条 博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）に基づき、高岡市立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。
（名称及び位置）
第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。
名称 高岡市立博物館
位置 高岡市古城1番5号
（事業）
第3条 博物館は、歴史、民俗、産業などに関する資料を収集し、保管し、及び展示して、教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査、研究等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うものとする。
（博物館協議会）
第4条 法第20条第1項の規定に基づき、高岡市立博物館協議会を置く。
2 高岡市立博物館協議会は、委員12人以内をもって組織する。
3 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。
（1）学校教育及び社会教育の関係者
（2）家庭教育の向上に資する活動を行う者
（3）学識経験を有する者
4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
5 委員は、再任されることができる。
（指定管理者による管理）
第4条の2 博物館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）にこれを行わせる。
（指定管理者が行う業務）
第4条の3 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。
（1）事業の実施に関する業務
（2）利用の許可に関する業務
（3）利用に係る料金の収受及び決定に関する業務
（4）施設及び設備の維持管理に関する業務
（5）前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める業務
（開館時間）
第4条の4 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとし、展示室へ入室できる時間は、午後4時30分とする。ただし、指定管理者は、必要と認めるときは、市長の承認を得て、これを変更することができる。
（休館日）
第4条の5 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者は、必要と認めるときは、市長の承認を得て、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- （1）月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日以外の日）
（2）12月29日から翌年の1月3日までの日
（観覧料）
第5条 博物館の展示資料を観覧しようとする者が、博物館の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）として納める観覧料は、無料とする。
2 前項の規定にかかわらず、特別展示等を行う場合の観覧料は、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て別に定める。
3 前項の観覧料は、指定管理者に観覧の際、前納しなければならない。
（施設の利用）
第6条 博物館の施設のうち次に掲げるものを利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。
（1）企画展示室（展覧会等開催のため第1企画展示室、第2企画展示室及び第3企画展示室を占用して利用する場合に限る。）
（2）茶室
（利用の制限）
第7条 指定管理者は、前条の規定により利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可を取り消し、又は利用を停止することができる。
（1）この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
（2）その利用が博物館の目的に適しないと認めたとき。
（3）前2号に掲げるもののほか、博物館の管理上特に必要があると認めるとき。
2 前項の規定による処分をした場合において利用者に損害が生ずることがあっても、指定管理者は、その責めを負わない。
（利用権の譲渡等の禁止）
第8条 利用者は、利用の権利を他に譲渡し、又は転貸してはならない。
（原状回復の義務）
第9条 利用者は、博物館の施設の利用を終了したときは、直ちに原状に回復しなければならない。第7条第1項の規定により、利用の許可を取り消されたときも、同様とする。
（入館の制限）
第10条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を制限し、又は退館を命ずることができる。
（1）他人に迷惑をかけるおそれがあると認められる者
（2）展示品又は施設、設備等を損傷するおそれがあると認められる者

- (3) 博物館の管理上必要な指示に従わない者
(施設利用料)
- 第11条 利用者は、利用料金として別表に掲げる額の範囲内で指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定める額の施設利用料を納めなければならない。
- 2 施設利用料は、利用許可の際、納入しなければならない。
(施設利用料の減免)
- 第12条 指定管理者は、市長規則の定めるところにより、施設利用料を減額し、又は免除することができる。
(施設利用料の不還付)
- 第13条 既納の施設利用料は、還付しない。ただし、指定管理者は、特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。
(利用料金の収入)
- 第14条 利用料金は、指定管理者の収入とする。
(損害賠償)
- 第15条 利用者は、建物その他付属設備、器具等を損傷し、又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長は、特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。
(委任)
- 第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成17年11月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 この条例の施行の日(以下「施行日」という。)の前日までに、合併前の高岡市立博物館条例(昭和45年高岡市条例第23号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

附 則(平成17年12月22日条例第272号)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 この条例の施行の日の前日までに、改正前の高岡市立博物館条例第6条の規定によりなされた許可は、改正後の高岡市立博物館条例第6条の規定によりなされた許可とみなす。

附 則(平成19年3月22日条例第17号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月22日条例第10号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、第1条及び第5条から第12条までの規定は、平成24年4月1日から施行する。

5 高岡市立博物館条例施行規則

(趣旨)

- 第1条 この規則は、高岡市立博物館条例(平成17年高岡市条例第206号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。
(協議会の組織)
- 第2条 条例第4条に規定する高岡市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選により定める。
- 2 会長及び副会長の任期は、委員の任期による。
- 3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(高岡市立博物館条例の一部改正に伴う経過措置)

- 5 この条例の施行の際現に第2次一括法による改正前の博物館法(昭和26年法律第285号。以下「旧博物館法」という。)第21条の規定により高岡市教育委員会が任命した高岡市立博物館協議会の委員(以下この項において「旧委員」という。)である者は、施行日に第8条の規定による改正後の高岡市立博物館条例(以下この項において「新条例」という。)第4条第3項の規定により高岡市立博物館協議会の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる委員の任期は、新条例第4条第4項の規定にかかわらず、施行日における旧委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

附 則(平成26年3月20日条例第52号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成29年3月21日条例第5号)抄

(施行期日)

- 1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。
(高岡市立博物館条例の一部改正に伴う経過措置)
- 3 施行日の前日までに、第2条の規定による改正前の高岡市立博物館条例(次項において「旧条例」という。)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、同条の規定による改正後の高岡市立博物館条例の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。
- 4 この条例の施行の際現に旧条例第4条第3項の規定により高岡市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が任命した高岡市立博物館協議会の委員(以下この項において「旧委員」という。)である者は、施行日に第2条の規定による改正後の高岡市立博物館条例(以下この項において「新条例」という。)第4条第3項の規定により高岡市立博物館協議会の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる委員の任期は、新条例第4条第4項の規定にかかわらず、施行日における旧委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

別表(第11条関係)

名 称	施 設 利 用 料
企画展示室	1日につき 9,720円
茶 室	1日につき 4,320円

備考

- 1 冷房又は暖房利用料は、施設利用料の2割に相当する額とする。
- 2 利用に際し、入場料又はこれに類するものを徴収する場合は、施設利用料の5割に相当する金額(入場料又はこれに類するものが1,000円以下の場合にあっては、3割に相当する金額)を加算する。
- 3 施設利用料の算定に当たって、10円未満の端数を生じたときは、当該端数は切り捨てるものとする。

平成17年11月1日
教育委員会規則第39号

(会議の招集)

第3条 会議は、必要に応じ会長が招集する。

(議事)

第4条 協議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(利用許可の申請)

- 第5条 条例第6条の規定により、高岡市立博物館(以下「博物館」という。)の施設の利用許可を受けようとする者は、利用許可申請書を指定管理者に提出しなければならない。
- 2 前項の申請書は、利用期日(利用しようとする日が引き続き2日以上であるときは、その初日)の6箇月前から2週間前までの間に提出しなければならない。ただし、指定管理者が特別の理由がある

と認めるときは、この限りでない。

(利用の許可)

第6条 指定管理者は、博物館の施設の利用を許可したときは、利用許可書を交付するものとする。

(利用許可の取りやめ及び変更)

第7条 利用の許可を受けた者は、利用の取りやめ又は変更について許可を受けようとするときは、利用取りやめ(変更)申請書を指定管理者に提出しなければならない。

(施設利用料の減免)

第8条 条例第12条の規定により、施設利用料の減免を受けようとする者は、施設利用料減免申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 施設利用料の減免の範囲及び割合は、別表のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めて市長の承認を得たときは、この限りでない。

3 施設利用料の減免額の算定に当たって、10円未満の端数を生じたときは、これを10円として計算する。

(施設利用料の還付)

第9条 条例第13条ただし書の規定により施設利用料を還付する場合は、次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定めるところによる。

(1) 条例第7条第1項第3号の規定により、指定管理者が利用許可を取り消したとき 全額を還付する。

(2) 災害その他不可抗力により利用することができなくなった

とき 全額を還付する。

(3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者が還付を必要と認めるとき 8割相当額を還付する。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成29年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日までに、高岡市民会館条例施行規則等を廃止する規則(平成29年高岡市教育委員会規則第4号)による廃止前の高岡市立博物館条例施行規則(平成17年高岡市教育委員会規則第39号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、施行日以後この規則の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

別表(第8条関係)

企画展示室、講堂及び茶室の施設利用料(冷暖房利用料は除く。)を減免する場合

利用区分	減免率
市又は教育委員会の主催する場合	100%
市又は教育委員会の共催する場合	50%

6 入館者数(「小人」は中学生以下。単位：人)

①常設展「高岡ものがたりー楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアムー」

会期：4月1日(土)～平成30年3月31日(土)(開催日数309日間)

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
13,224	2,340	10,592	2,069	28,225

②企画展「新資料展」

会期：4月1日(土)～5月7日(日)(開催日数33日間)

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
2,687	799	2,112	682	6,280

③特別展「農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好」

会期：7月28日(土)～10月15日(日)(開催日数68日間)

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
3,850	704	3,001	584	8,139

④企画展「黒部川開発100年記念写真展 - 高峰譲吉と山田胖 -」

会期：11月1日(水)～11月30日(木)（開催日数26日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
1,300	97	1,080	84	2,561

⑤企画展「高峰譲吉パネル展」

会期：12月1日(金)～平成30年1月8日(月)（開催日数29日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
583	81	457	113	1,234

⑥館蔵品展「昔の道具とくらし」

会期：平成30年2月3日(土)～3月31日(土)（開催日数49日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
1,600	280	1,121	198	3,199

総計（開催延日数514日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
23,244	4,301	18,363	3,830	49,638

過去5年間の入館者数

H24	H25	H26	H27	H28
26,469	31,400	41,832	34,644	40,923

7 当館関連記事一覧

〔平成29年〕

- 4月 1日 北日本新聞「収蔵の風景画展示」／市立博物館
- 4月 9日 富山新聞「呈茶の会」（ほたるいか）
- 4月 9日 北日本新聞「呈茶の会」（風車）
- 4月14日 富山新聞「園内の桜一望／高岡市立博物館が屋上開放」
- 4月14日 北日本新聞「“特等席”で花見いかが／古城公園内市立博物館屋上を一般開放」
- 4月14日 中日新聞「見下ろす花も格別 高岡／古城公園展望台を開放」
- 5月 2日 北日本新聞「犬養の書状 砺波で発見／高岡の運動家宛て 東さん宅／専門家「2人の交流示す」」
- 5月 7日 富山新聞「博物館に呈茶席／高岡」
- 5月10日 北日本新聞「満喫1万歩の歴史散策／高岡市立博物館に親しむ会／会員30人利長ゆかりの地巡る」
- 5月14日 北日本新聞「嫁入り道具から原画／1951年高岡産業博ポスター／高岡大寺さん 父がついたてに／もう1種類は郷倉千朝氏作／庄川の藤永さん保管」

- 5月17日 北日本新聞「1951年の高岡産業博覧会／ポスターの一部発見／井波の民家」
 5月24日 富山新聞「開町400年記念公開講座始まる／戸出開発「藩の重要事業」／高岡法科大・本多准教授 御印状を解説」
 6月 2日 北日本新聞「アニメ聖地巡礼で講座」／高岡
 6月 4日 富山新聞「アニメ聖地巡礼テーマに講演／高岡市立博物館」
 6月 9日 北日本新聞「古城公園の外に市博物館移転へ」
 7月 JA高岡広報「t-jan」(Vol.638)「高岡観光隊／高岡市立博物館の巻」
 7月 高岡市公式ホームページ ほっとホット高岡「懐かしい気持ちになる昔の電話」
 7月 6日 北日本新聞「憤りと反省交錯／県内役割問い直す契機／影響残る山本地方創生発言「一番のがんは文化芸員」／(文化)」
 7月 9日 読売新聞「土蔵造りの町 後世に／高岡市守山町／(ふるさと写真館)」
 7月24日 富山新聞「黒電話など並ぶ／高岡市立博物館」
 8月 4日 富山新聞「江戸期、郷土の学者五十嵐篤好の特別展／高岡市立博物館」
 8月 8日 北陸中日新聞「ジーコ、ジーコ…懐かしい 高岡市博物館で「昔の電話」展」
 8月17日 北陸中日新聞「万能の人 篤好の軌跡 高岡市博物館／算額、測量、国学、和歌、書道も」
 8月27日 北日本新聞「高岡の魅力歩いて再発見／商議所青年部130人名所旧跡巡る」
 9月 1日 富山新聞「高岡4大工芸イベントの23、24日／山町筋 移住促すツアー／まちっこプロジェクト 学生中心に企画」
 9月 4日 新潟日報「懐かしの黒電話 一堂に／富山」
 9月 5日 北日本新聞「農民救済の偉人知って／市立博物館 五十嵐篤好の特別展」
 9月 7日 北日本新聞「加賀藩の測量技術題材に講演／高岡」
 9月10日 富山新聞「加賀藩の測量術に理解」
 9月19日 毎日新聞「篤好の全貌 資料で紹介／舟倉用水開削に尽力／高岡市立博物館」
 9月20日 富山新聞「金沢の彫金師 銅器の下図／名工・二代横山孝純の父・孝茂／高岡一金沢 つながり示す／高岡市立博物館」
 9月21日 北日本新聞「あすから高岡市美術館 生誕1300年記念「家持の時代展」／万葉歌人 姿を今に／3部構成 国宝・重文含む96点」
 9月25日 新潟日報「農民救済の偉人知って／富山」
 10月 4日 朝日新聞「展覧会／特別展 農民魂をもつ大学者 五十嵐篤好／フォーラムとやま」
 10月 9日 北日本新聞「高峰讓吉の功績紹介／高岡」
 10月11日 中日新聞「移動資料展「高峰博士 スゴッ」高岡・千鳥丘小 功績紹介、肖像写真も」
 10月29日 富山新聞「高岡市立博物館で28日、常設展お宝コーナー展／ほたるいか」
 10月31日 富山新聞「高峰と山田の功績紹介／高岡、あすから黒部川開発100年記念写真展」
 11月 3日 北陸中日新聞「モミジや菊、秋薫る漆器／高岡市立博物館で展示」
 11月 4日 北日本新聞「郷土の俳人 知る機会に／戸出出身の尾崎康工／御旅屋の門保存会企画／きょうから文化祭で展示」
 11月 6日 北日本新聞「高岡市立博物館学芸員補 伊東梨愛さん／ざっくばらん」
 11月 7日 北日本新聞「趣ある茶室で一服／高岡」
 11月 9日 富山新聞「高岡・金屋業界繁栄を祈願／昔ながらに勾玉鑄込む／有磯正八幡宮 ふいご祭」
 11月 9日 北日本新聞「鑄物の神に感謝と祈り／高岡有磯正八幡宮「ふいご祭／伝統技法で勾玉鑄造」
 11月10日 富山新聞「夢二の表紙画、一堂に／高志の国文学館 来月16日から5周年企画展」
 11月14日 中日新聞「黒部川電源開発 導いた2人 高岡市立博物館 高峰讓吉と山田胖紹介」
 11月15日 北日本新聞「高岡の歴史訪ね歩く／物流支えた川たどる／市民グループ」
 11月17日 毎日新聞「黒部川開発の礎紹介／開始100年高峰博士と山田技師の功績写真で／30日まで高岡市立博物館」
 11月17日 北日本新聞「高岡の工芸 技と美紹介／高岡市美術館」
 11月17日 富山新聞「工芸の美示す／高岡市美術館」
 11月26日 富山新聞「高岡と加賀藩のつながり紹介／市立博物館で講座」
 11月29日 朝日新聞デジタル「富山」高峰讓吉らの黒部川開発たどる 高岡で企画展」
 12月 6日 北日本新聞「勇助塗や彫刻塗の漆器／高岡」
 12月17日 富山新聞「夢二の表紙画など300点／富山・高志の国文学館 東亜薬品が寄託」

〔平成30年〕

- 1月 3日 富山新聞「勝興寺「金の間」特別公開へ 高岡／加賀藩主ゆかりの「VIPルーム」／今夏に本坊修理完了」
 1月 4日 北日本新聞「高岡の歴史を楽しく学ぼう！／四季の散歩道」
 1月21日 富山新聞「古文書 市民が調査／高岡市立博物館で人気／生涯学習「読めると痛快」
 2月 4日 富山新聞「ほたるいか」
 2月 7日 フリーペーパー富山情報965号「高岡市立博物館 常設展・お宝コーナー「懐かしのレトロゲーム展」
 2月 8日 中日新聞「懐かしの日用品で時間旅行 高岡博物館で展示」
 2月11日 北日本新聞「懐かしのゲーム機一堂に／市立博物館／ブン太を探せ！」
 2月11日 富山新聞「ゲーム機の歴史紹介／高岡市立博物館」
 2月17日 富山新聞「とやまワイド 昔の生活 工夫に感心／道具展を見学 高岡・下関小3年生／生活の知恵を学ぶ 福岡小3年生」
 3月 7日 毎日新聞「展示 昔の暮らし、道具で学ぶ 明治～昭和の164点 高岡／富山」
 3月 8日 富山新聞「喜ぶ友人に晴れ晴れと／本郷信隆 79歳」
 3月 9日 北日本新聞「明治～昭和の日用品や農具／市立博物館で展示」
 3月11日 富山新聞「瑞龍寺 土地没収の文書／明治維新 困窮の始まり示す／境内以の1万7千坪 高岡で初確認」
 3月21日 北日本新聞「24日に博物館で「おもしろゼミ」／高岡生物研究会」

Ⅲ 施設の状況

1 沿革

昭和44年(1969)	市制施行80周年・開町360年記念事業として高岡市美術館（昭和26年築）に隣接して建設することを決定。
8月	建設設計を完了。
10月	建設工事を着工。
45年(1970) 3月	建設工事を完了。高岡市立博物館条例を公布。
6月	高岡市立博物館に関する規則を公布。 開館。
8月	高岡市立博物館協議会委員委嘱（12人）。
46年(1971) 2月	博物館法（昭和26年法律第285号）第10条の規定に基づく公立博物館として文部省及び富山県教育委員会に登録。
10月	淡交会高岡支部より茶室を寄贈される。
平成6年(1994) 4月	美術館の移転分離により、旧美術館棟を博物館棟（現本館）として財産登録。 高岡市立博物館条例を一部改正。
8月	高岡市立博物館整備検討委員会設置（以後平成10年1月まで6回会議）。
8年(1996) 4月	財団法人高岡市民文化振興事業団へ管理運営委託。
10年(1998) 2月	高岡市立博物館整備検討委員会により「高岡市立博物館整備検討委員会報告書」が高岡市に提出される。
10月	本館で常設展「郷土の暮らしと文化」開催。
12年(2000)	新館1階収蔵庫改修工事の実施。
14年(2002) 7月	ホームページを公開。
18年(2006) 4月	財団法人高岡市民文化振興事業団が指定管理者となる。
19年(2007) 7月	常設展を「高岡ものがたり」にリニューアル。
11月	高岡市立博物館整備構想検討委員会設置（以後平成21年度まで継続）。
20年(2008) 11月	常設展リニューアル以後の入館者3万人を達成。
22年(2010) 2月	高岡市立博物館整備構想検討委員会より「高岡市立博物館整備構想報告書」が高岡市に提出される。
10月	デジタルアーカイブ推進事業を開始（～平成25年3月）。
23年(2011)	本館収蔵庫改修工事の実施。
10月	『二上射水神社文書目録』を編集。
24年(2012) 4月	指定管理者の財団法人高岡市民文化振興事業団が公益財団法人に移行。
10月	「収蔵資料検索システム－あなたの家が博物館－」の運用開始。
25年(2013) 3月	高岡市立博物館に親しむ会設立。
4月	佐渡家資料調査事業を開始。 常設展示室に「お宝コーナー」開設。
6月	常設展「高岡ものがたり」音声ガイド5台導入。
27年(2015) 3月	『佐渡家資料目録』を編集・発行。佐渡家資料調査事業を終了。
4月	高岡古文書ボランティア部会（親しむ会）設立。
28年(2016) 5月	本館入口付近の壁面等落下のため、本館正面玄関を閉鎖。
12月	本館正面玄関修繕工事の実施。
29年(2017) 6月	国登録有形文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の国指定重要指定に向けた当館収蔵鋳物資料の調査開始。
9月	本館屋根瓦葺き替え工事の実施。
10月	本館天井張り替え工事の実施。

2 施設概要

所在地 富山県高岡市古城1番5号

敷地面積 1,298.6㎡

建築面積 1,214.91㎡

建築延面積 1,905.21㎡

開館 昭和45年6月1日

構造 鉄筋コンクリート造一部木造平屋建て（本館・事務棟）

鉄筋コンクリート造3階建て（新館）

〔本館〕

エントランスホールB 81.00㎡

第1常設展示室B 243.00㎡

第2常設展示室B 145.80㎡

休憩室 35.64㎡

〔新館1階〕

収蔵庫A 48.50㎡

第1企画展示室 97.20㎡

〔新館2階〕

第2企画展示室 145.80㎡

第3企画展示室 51.84㎡

〔新館3階〕

講堂 145.80㎡

収蔵庫C 64.80㎡

展示用具倉庫 17.70㎡

〔事務棟〕

収蔵庫B 48.50㎡

館長室 49.50㎡

事務室 27.50㎡

〔茶室〕

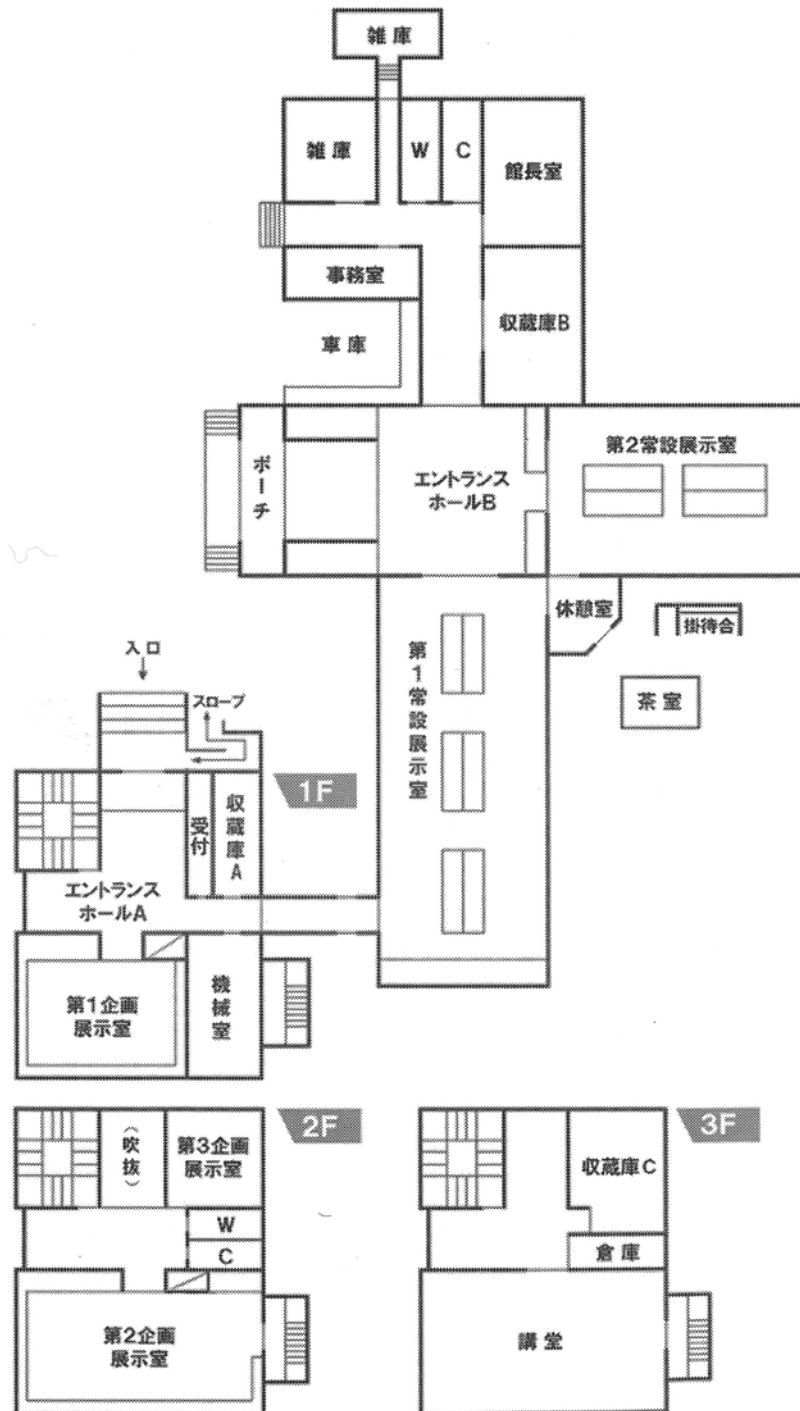
九畳本勝手下座床・水屋付き

腰掛待合 三畳半



博物館前景

〔館内略図〕



茶室「松聲庵」

3 利用案内

- ① 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
② 休館日 月曜日（ただし月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌平日が休館）
年末年始（12月29日～1月3日）

- ③ 入館料 無料

- ④ 施設利用料（税込）

〔企画展示室〕 一日につき	第1企画展示室	3,240円
	第2企画展示室	4,860円
	第3企画展示室	1,620円

〔茶室〕 一日につき 4,320円

- ⑤ 交通

〔JR新高岡駅より〕 ・南口バス乗り場（1番または2番）で加越能バス「高岡駅」方面（シャトル6）に
乗車、「高岡駅南口」バス停下車

・JR城端線で高岡駅へ

〔高岡駅より〕 ・加越能バス「市民病院・職安前」行き、「大手町」バス停下車、徒歩5分
・徒歩約15分（高岡駅前より北東約1km）

〔自動車〕 ・能越自動車道 高岡ICから約20分
高岡北ICから約25分
・北陸自動車道 高岡砺波スマートICから約15分
小杉ICから約30分
砺波ICから約30分

〔周辺略図〕



高岡市立博物館年報 第32号

平成29年度

発 行 日 平成31年3月29日

編集・発行 高岡市立博物館
〒933-0044 富山県高岡市古城1-5
TEL : 0766-20-1572
FAX : 0766-20-1570

印 刷 株式会社チューエツ